



奥能登国際芸術祭 2023

総括報告

奥能登国際芸術祭実行委員会

奥能登国際芸術祭 2023 総括報告書 目次

1	開催概要について	
1	開催概要	p. 3
2	開催結果に対する検証	
2-(1)	会期中の来場者数について	
2-(1)-①	作品来場者数	p. 8
2-(1)-②	イベント来場者数	p. 11
2-(2)	財政面における検証	
2-(2)-①	作品鑑賞パスポート等の販売状況	p. 14
2-(2)-②	寄付金・協賛金について	p. 17
2-(2)-③	助成金・補助金について	p. 18
2-(2)-④	収支の状況（実行委員会会計）	p. 18
2-(3)	運営体制における検証	
2-(3)-①	実行委員会体制	p. 20
2-(3)-②	事務局体制	p. 21
2-(3)-③	行政職員等の連携	p. 21
2-(3)-④	関係機関との連携推進	p. 22
2-(3)-⑤	サポーター・ボランティアや地域住民との協働	p. 22
2-(4)	個々の取り組みの検証	
2-(4)-①	案内体制	p. 26
2-(4)-②	交通システム	p. 28
2-(4)-③	受け入れ・もてなし	p. 33
2-(4)-④	広報・宣伝の取り組みについて	p. 46
3	その他	
3-(1)	誘客促進の取り組みについて	p. 56
3-(2)	さいはてのキャバレー貸館事業	p. 58
3-(3)	スズ・シアター・ミュージアム等の取り組みについて	p. 59
4	開催効果にかかる検証	
4-(1)	効果把握の視点	p. 62
4-(2)	開催効果の整理と分析	p. 62
4-(3)	これまでの経済効果・波及効果のまとめ	p. 65
4-(4)	移住者の推移	p. 65
5	常設作品及び今後の事業展開等について	p. 68
6	次回に向けて	p. 73

■資料編

- ・奥能登国際芸術祭実行委員会組織図
- ・奥能登国際芸術祭実行委員及び事務局名簿(令和5年8月1日現在)
- ・芸術祭のあゆみ(2014年-2024年)
- ・これまでの実績

1 開催概要について

奥能登国際芸術祭 2020+閉幕後から次回芸術祭の開催について検討が行われた。前回(2020+)は新型コロナの影響もあり1年延期を余儀なくされたが、2017年当初の計画から3年に1度のトリエンナーレ方式であることから、計画どおり2023年9月の開催を決定した。

こうした中、2023年5月に発生した令和5年奥能登地震により、市内の建物や道路にも甚大な被害があったことから、市民生活の再建を最優先としたうえで、開幕日を9月2日から3週間延期し9月23日に開幕することとした。

(1) 名称

奥能登国際芸術祭 2023
～最涯の芸術祭、美術の最先端。～

(2) 会期

2023年9月23日(土)～11月12日(日) 51日間
※うち毎週木曜日を定休日(スズ・シアター・ミュージアム、潮騒レストランを除く)

(3) 会場

石川県珠洲市全域 247.20 km²

(4) 参加作家

14の国と地域から59組

(5) 主催

奥能登国際芸術祭実行委員会
実行委員長 | 泉谷満寿裕(珠洲市長)
総合ディレクター | 北川フラム(アートディレクター)

(6) 助成

文化庁
一般財団法人地域創造
公益財団法人澁谷学術文化スポーツ振興財団

(7) 特別協力

北國新聞社

(8) 協力

金沢経済同友会/北陸放送/テレビ金沢/エフエム石川/ラジオかなざわ
/ラジオこまつ/ラジオななお

(9) ロゴ



ロゴデザイン | 浅葉克巳

(奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター)

ロゴマークの色は、芸術祭毎に変化します。2017 が黄色、2020+が黄緑、そして、2023 はターコイズブルーを提案します。ターコイズブルーは、J I S 慣用職色名では「明るい緑みの青」で、春を告げるコマドリの鮮やかな「青い卵」の色にも近い。コマドリは、昔から” 幸せを呼ぶ鳥” と言われてきました。また、古くから青は真実や高潔さのシンボルでもありました。ロゴタイプは、人間性が一番出る筆文字にしました。筆で楷書を書き続けて 20 年。やはり行きつく先は顔真卿、44 歳で書いた多宝塔碑です。英文は浅葉克巳が 22 歳の時創ったタイポグラフィの本がありますが、筆でラテン文字を創ってみたいとなりました。筆で S の文字が一番むずかしいのです、SUZU の S です。S を中心に SUZU を書いてみました。(浅葉克巳)

(参考)

当初予定会期：2023 年 9 月 2 日（土）～10 月 22 日（日） 51 日間

変更後会期：2023 年 9 月 23 日（土・祝）～11 月 12 日（日） 51 日間

(10) 作品一覧

参加作家：14 の国と地域から 59 組

珠洲市内全 10 地区で作品展開（59 組 52 作品）

地区	NO.	作品会場	作家名	作品・PJ 名	
大谷	1	旧清水保育所	塩田千春(日本/ドイツ)	時を運ぶ船	※1
	2-1	スズ・シアター・ミュージアム「光の方舟」 (旧西部小学校)	南条嘉毅	余光の海	※2
			O B I	ドリフターズ	
			大川友希	待ち合わせの森	
			橋本雅也	母音/海鳴り 海雲	
			竹中美幸	覗いて、眺めて、	
			三宅砂織	The missing shade59-1 /Seascape(Suzu)/Untitled	
			久野彩子	静かに佇む	
			Bacilli/旧世界土協会	Soilstory-つちがたり-	
			阿部海太郎	「光の方舟」の音風景	
	2-2	旧大谷保育所	—	スズ・シアター・ミュージアム分館「大蔵ざらえ収蔵庫」	※3
	3	スズ・シアター・ミュージアム（旧西部小学校）	坂 茂	潮騒レストラン	※3
	4		浅葉克己	石の卓球台第3号	※2
	5		牛嶋 均	松雲海風舂雲	※3
日置	6	寄揚の浜	ファイグ・アフメッド (アゼルバイジャン)	自身への扉	
	7	鰐崎海岸	奥村浩之 (日本/メキシコ)	風と波	※3
	8	笹波海岸	アナ・ラウラ・アラエズ (スペイン [バスク地方])	太古の響き	
	9	木ノ浦自然歩道	弓指寛治	プレイス・ビヨンド	
	10	木ノ浦野営場	アレクサンドル・ポノマリ ョフ(旧ソ連[ドニプロ]/ロシア)	TENGAI	※3
	11	木ノ浦海岸	リチャード・ディーコン (イギリス)	Infinity 41.42.43	※3
	12	旧日置公民館	さわひらき (日本/イギリス)	幻想考 “The Butterfly Dreams”	※1
	13	狼煙漁港	小野龍一	アイオロスの広場	
三崎	14	旧粟津保育所	カールステン・ニコライ (ドイツ)	Autonomo／図書室：カールステン・ニコライが推奨する子供の本	※2
	15		杉谷一考	おもちゃ	
	16	内方の倉庫	梅田哲也	遠のく	
	17	旧本小学校体育館	植松奎二	みえないエネルギー 天と地と海との間に	
	18	旧小泊保育所	山本基	記憶への回廊	※2

地区	NO.	作品会場	作家名	作品名	
蛸島	19	鉢ヶ崎海岸	ラグジュアリー・ロジコ [豪華朗機工] (台湾)	家のささやき	※3
	20	珠洲焼資料館	リュウ・ジャンファ [劉建華] (中国)	漂移する風景	※1
	21	蛸島の民家	O B I	4 K	
	22	旧島崎家	田中信行	触生ー赤の痕跡ー	
	23	旧蛸島駅周辺	トビアス・レーベルガー (ドイツ)	Something Else is Possible/ なにか他にできる	※1
正院	24	旧正院駅	大岩オスカル (ブラジル/アメリカ)	植木鉢	※2
	25	旧飯塚保育所	ひびのこづえ	コスチューム×身体×スズカ	※1
	26	飯塚の旧事務所	中島伽耶子	あかるい家 Bright house	※2
直	27	旧珠洲駅 (道の駅すずなり)	佐藤悠	おはなしの駅 すず	
飯田	28	旧まへの衣料店	ソル・カレロ (ベネズエラ/ドイツ)	La tienda Maeno	
	29	旧時計店	弓指寛治	物語るテーブルランナーin 珠洲2	
	30	旧タクシー営業所2階	栗田宏一	能登はやさしや土までも	
	31	飯田町商店街 (旧スーパーフナモト)	のらもじ発見プロジェクト	いいよ、いいまち、いいだまち。	
	32	旧飯田駅	河口龍夫	小さい忘れもの美術館	※1
上戸	33	上戸の民家	吉野央子	回遊の果て	
	34	上戸の舟小屋	城保奈美	海の上の幻	
	35	旧上戸駅	ラックス・メディア・コレク ティブ (インド)	うつしみ	※1
	36	柳田児童公園	N. S. ハーシャ (インド)	なぜここにいるのだろう	※3
	37	上戸の風力発電所	S I D E C O R E	Blowin' In The Wind	
宝立	38	春日野の蔵	シリル・アベディニラッ ド (イラン/アメリカ)	流転	
	39	旧鵜飼駅	コウ・シュンミン[高濑明] (オーストラリア/中国香港)	秘境	
	40	旧柏原保育所	北山善夫	人間は赤ちゃんから生まれる	
	41	見付園地 (見附島周辺)	シュー・ジェン [徐震®] (中国)	運動場	
	42	旧鵜島保育所	マリア・フェルナンダ・カル ドーゾ (コロンビア/オース トラリア)	種のタイムカプセル	
若山	43	旧上黒丸小中学校	泰然+きみきみよ	あかりのありか《のと》	
	44		嘉春佳	祈りのかたち	
	45		鈴木泰人	音蔵庫	

2 開催結果に対する検証

2-(1) 会期中の来場者数について

2-(1)-① 作品来場者数

今回の会期中における来場者数は、以下のとおり 51,136 人 となった。

2023 年 5 月に発生した令和 5 年奥能登地震に伴い、開幕日を 3 週間遅らせ 9 月 23 日から開催することにした。

i. 来場者数（推計値）（9 月 23 日～11 月 12 日）

期 間	来場者数
全期間来場者数	51,136 人
うち作品来場者数	49,366 人
うちイベント来場者数	1,770 人
日最大来場者数（10 月 8 日（日））	3,087 人
週末最大来場者数（11 月 4～5 日）	5,291 人

※全期間来場者数の平均 1,002 人/日

※作品来場者数(推計値)について

震災対応のためスタッフの配置が限られ、会期中、実人数を直接計測することが困難であったことから、第 1 回(2017)の計測を参考に、できるだけ実数に近いものになるよう市内の作品会場をエリア別に 4 ブロックに分け、各ブロックの中で最も鑑賞者数が多かった作品受付人数の合計値を当日の作品鑑賞者数として集計した。

(参考)

■エリア別来場者数

期 間	来場者数
大谷・日置エリア	19,896 人（平均 390 人/日）
三崎・蛸島・正院・直エリア	9,782 人（平均 191 人/日）
飯田・上戸・宝立エリア	10,575 人（平均 207 人/日）
若山エリア	9,113 人（平均 178 人/日）

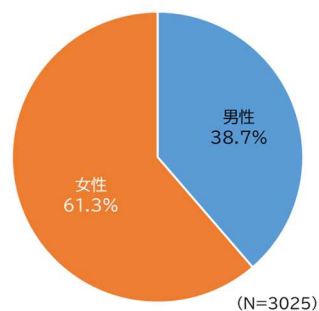
※来場者数の算出方法は第 1 回(奥能登国際芸術祭 2017)を参考とした。

ii. 来場者の構成

来場者アンケートに基づき来場者の構成は以下のとおり。

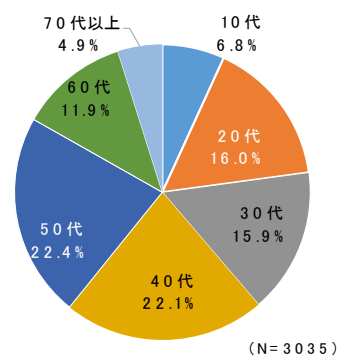
(性別)

	内訳
男性	38.7%
女性	61.3%



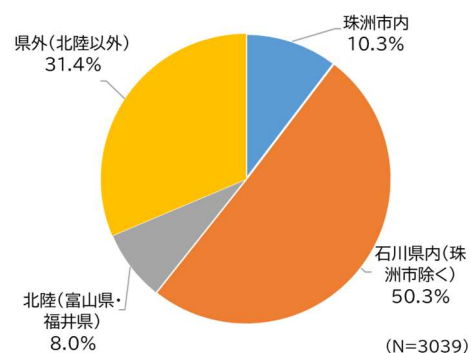
(年代別)

	内訳
10代	6.8%
20代	16.0%
30代	15.9%
40代	22.1%
50代	22.4%
60代	11.9%
70代以上	4.9%



(居住地別)

	内訳
珠洲市内	10.3%
石川県内 (珠洲市を除く)	50.3%
北陸 (富山県、福井県)	8.0%
県外 (北陸以外)	31.4%



iii. 作品会場別鑑賞者数（有人受付のみ）

（単位：のべ人）

	No.	会場	作家名	鑑賞者数
大谷	1	旧清水保育所	塩田千春	17,437
	2-1	スズ・シアター・ミュージアム	南条嘉毅ほか	17,962
	2-2	スズ・シアター・ミュージアム分館	—	7,217
	3	潮騒レストラン	坂 茂	631
日置	12	旧日置公民館	さわひらき	9,876
三崎	14	旧栗津保育所	カールステン・ニコライ	10,585
	15		杉谷一考	
	16	内方の倉庫	梅田哲也	8,459
	17	旧本小学校体育館	植松奎二	8,099
	18	旧小泊保育所	山本基	12,845
蛸島	21	蛸島の民家	OBI	8,127
	22	旧島崎家	田中信行	9,495
正院	25	スズズカ（旧飯塚保育所）	ひびのこづえ	8,355
飯田	28	旧まへの衣料店	ソル・カレロ	8,460
	29	旧時計店	弓指寛治	8,646
	30	旧タクシー営業所 2 階	栗田宏一	8,620
	31	飯田町商店街	のらもじ発見プロジェクト	8,290
上戸	33	北方の民家	吉野央子	9,074
宝立	38	春日野の蔵	シリン・アベディニラッド	10,264
	39	旧鶴飼駅	コウ・シュンミン [高凌明]	9,045
	40	旧柏原保育所	北山善夫	7,221
	42	旧鶴島保育所	マリア・フェルナンダ・カルドージ	8,632
若山	43-45	旧上黒丸小中学校	鈴木泰人、泰然＋きみきみよ、嘉春佳	8,864
	46	吉ヶ池の民家	原嶋亮輔	7,428

合計（24 会場）	213,632 人
-----------	-----------

※鑑賞者数について

各作品会場（有人受付）で受付した数字を計上。

2-(1)-② イベント来場者数

会期中は、作品展示のほか週末を中心にパフォーマンスやワークショップなどイベントが開催された。その主な来場者数については、以下のとおり合計 1,770 人となった。

i. 会期中のイベント来場者数

<実行委員会主催>

イベント名	動員数
田中泯 「場踊り一歩む」/スズ・シアター・ミュージアム (9月22、23、24日) ※22日は関係者のみ(72人) 計3公演 計211人	139人
さいはての朗読劇 「うつつ・ふる・ずず」/スズ・シアター・ミュージアム (9月29、30日) 計3公演 ※プレトーク@さいはてのキャバレー(9月29日)	298人
ひびのこづえ 「Come and Go」/スズズカイレブン(10月7、8、9日) 計3公演 「FLY, FLY, FLY」/島地保武(10月7、8日) 計2公演 「MAMMOTH」/藤村港平(10月14、15日) 計2公演	591人
劇団三毛猫座 「海のまぼろし」/鉢ヶ崎海岸 (10月7日、8日) 計3公演	189人
世田谷シルク 「まぼろしのきおく」/木ノ浦野営場 (10月14、15日) 計2公演	141人
小野龍一 「奥能登協奏曲 第1番」/アイオロスの広場(狼煙漁港) (10月21日) 計1公演	47人

<作家主催のワークショップなど>

イベント名	動員数
のらもじプロジェクト 「飯田まち歩き+文字づくりワークショップ」/飯田町商店街 (10月8日) 計1回	9人
鈴木泰人 「ほどける、オト・モノ」/旧上黒丸小中学校 (10月8、9日) 計3回	120人
田中信行 「組子細工によるコースター作り+漆(摺り漆)体験」 /旧島崎家(10月8、15日) 計2回	18人

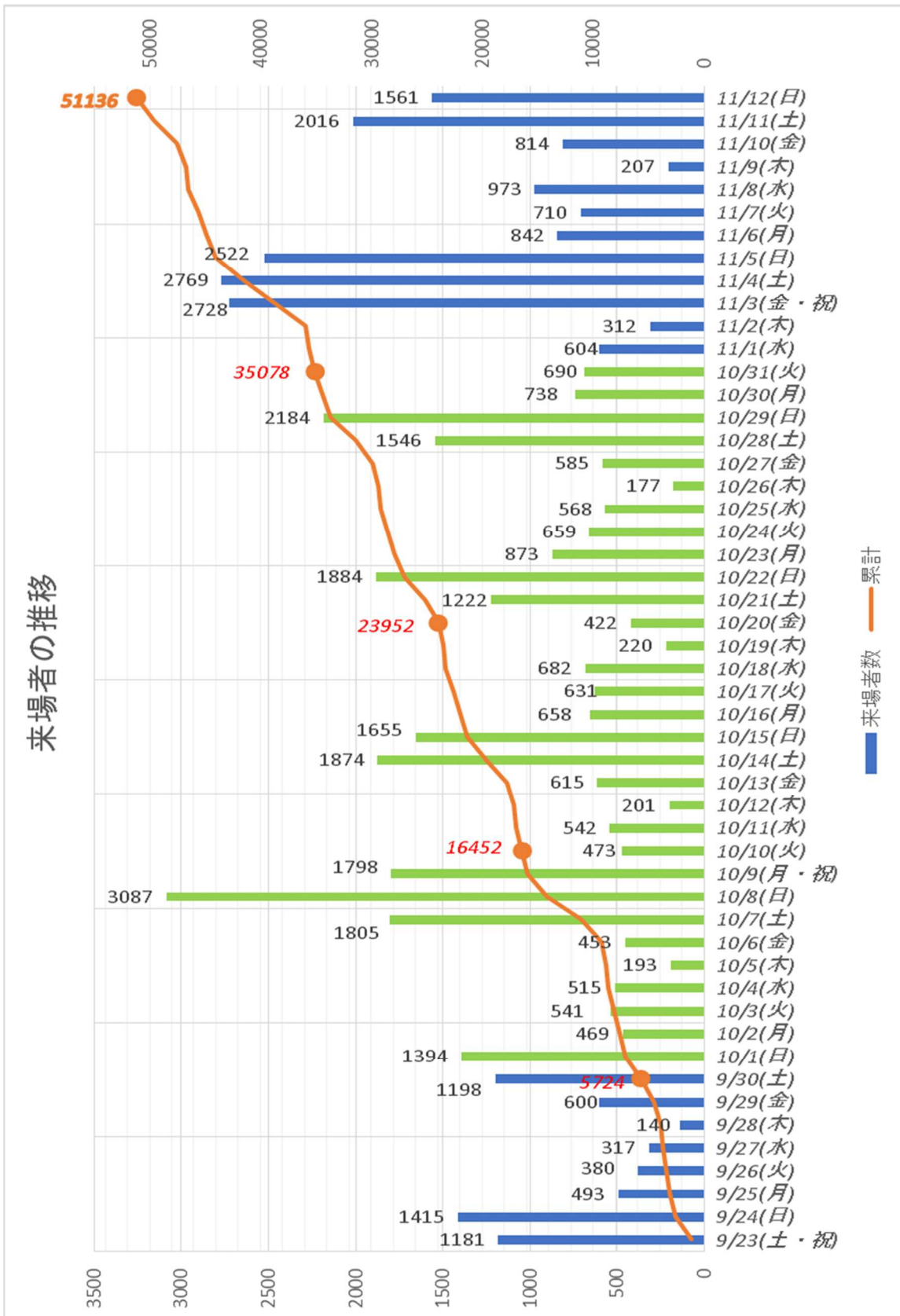
泰然+きみきみよ 「積み木とあかりのワークショップ」/旧上黒丸小中学校 (10月21、22日) 計2回	20人
マリア・フェルナンダ・カルドーズ 「紙芝居パフォーマンス」/旧鶴島保育所 (10月28日、11月4日) 計2公演	115人
カールステン・ニコライ 「図書館:カールステン・ニコライが推薦する子供の本」絵本の パフォーマンス」@旧粟津保育所 (10月29日、11月11日) 計2公演	83人
合計	1,770人

(イベントの様子)



(参考)

■来場者の推移



2-(2) 財政面における検証

2-(2)-① 作品鑑賞パスポート等の販売状況

作品鑑賞パスポートについては、7月25日に開催したプレイベント（金沢赤羽ホール）に合わせ販売を開始した。市内では、各道の駅、各郵便局など主要な施設での販売したほか、市外・県外の方へも購入しやすいように紙媒体の他、電子パスポート「Art Sticker」での販売や、各種コンビニ、プレイガイドなど購入できるよう取り組みを行った。

また、会期中は作品鑑賞パスポートを持たない来場者向けに、各会場においては個別鑑賞券の販売も行った。

i. 作品鑑賞パスポート販売状況

	一般	大学生	小中高生	合 計
	前売 2,750 円 当日 3,300 円	前売 1,320 円 当日 1,650 円	前売/当日 ともに 550 円	
前売券	11,742 冊	214 冊	1,252 冊	13,208 冊
	32,290,500 円	282,480 円	688,600 円	33,261,580 円
(うち 電子パスポート)	(444 冊)	(22 冊)	(13 冊)	(479 冊)
	(1,221,000 円)	(29,040 円)	(7,150 円)	(1,257,190 円)
当日券	7,409 冊	560 冊	644 冊	8,613 冊
	24,447,300 円	924,000 円	354,200 円	25,725,500 円
(うち 電子パスポート)	(517 冊)	(53 冊)	(26 冊)	(596 冊)
	(1,706,100 円)	(87,450 円)	(14,300 円)	(1,807,850 円)
合 計	19,151 冊	774 冊	1,896 冊	21,821 冊
	56,737,800 円	1,206,480 円	1,042,800 円	58,987,080 円
(うち 電子パスポート)	(961 冊)	(75 冊)	(39 冊)	(1,075 冊)
	(2,927,100 円)	(116,490 円)	(21,450 円)	(3,065,040 円)

※委託販売については、販売手数料 10%をお支払い



■電子パスポート「Art Sticker」

英語、簡体、繁体に対応

パスポートの他、有料で音声ガイドも対応

ii. 個別鑑賞券販売状況

(各作品)

券種	枚数	金額
一般・大学生 (330 円)	13,610 枚	4,491,300 円
小中高生 (220 円)	533 枚	117,260 円
合 計	14,143 枚	4,608,560 円

(スズ・シアター・ミュージアム)

券種	枚数	金額
一般 (800 円)	3,177 枚	2,541,600 円
大学生 (600 円)	52 枚	31,200 円
小中高生 (400 円)	75 枚	30,000 円
団体 一般 (700 円)	20 枚	14,000 円
団体 大学生 (500 円)	—	—
団体 小中高生 (300 円)	—	—
合 計	3,324 枚	2,616,800 円

(スズ・シアター・ミュージアム分館)

券種	枚数	金額
一般・大学生 (300 円)	268 枚	80,400 円
小中高生 (200 円)	3 枚	600 円
合 計	271 枚	81,000 円

個別鑑賞券 合計	17,738 枚	7,306,360 円
----------	----------	-------------

iii. 入館料の合計金額

作品鑑賞パスポート	個別鑑賞券	合計
58,987,080 円	7,306,360 円	66,293,440 円



▲パスポート(左から、一般、大学生、小中高生)



▲個別鑑賞券

【成果と課題】

- 5月5日に発生した令和5年奥能登地震の影響により、開催が3週間延期となったが、旅行会社等のツアー造成や、パスポートの委託販売など積極的に行った。パスポートの売上については、前回から価格を値上げしたものの、売上は前回比109%となった。
- 個別鑑賞券の売上については、前回比120%となった。
- パスポートの販売冊数をみると、前回比95%、個別鑑賞券についても93%となった。
- 基本的に市内一円に存在する作品は有料であるが、奥能登国際芸術祭2023では、自由に鑑賞できる屋外作品が増えたことにより、鑑賞券等を購入せずに作品鑑賞する鑑賞者も多く見られた。
- パスポートについては、前回好評を得たデザインを生かし、さらに使い勝手を考慮し、英語表記に対応したほか、パスポート特典一覧を記載するなど内容を精査した。前回同様、スタンプラリー形式でその見やすさや使いやすさから購入者からも好評を得た。
- 今回は電子パスポートアプリ「ArtSticker」を導入した。利用者は全体の約5%と2回目（「ART PASS」）と比較して横ばいとなった。
- 実際のスタンプラリーを行いながら作品を巡る方法が確立されていることから、利用率は少なかったと考える。しかし、利用者からは、スマートフォンだけで手軽に巡ることができることや、アプリ内で作品の地図を利用できるといった点、さらに外国人向けの音声ガイドを搭載していることから、2回目の「ART PASS」より好評であり、特に若者を中心に利用が多かった。今後も電子決済等の販売を強化していくことが必要と感じた。
- 台湾でのPR活動を積極的に行った結果、台湾の旅行社及びインフルエンサーの情報発信等で台湾とのつながりも新たに生まれ、新たなインバウンドの取組みも実現した。今後も海外からの誘客についても力を入れていく必要がある。

2-(2)-② 寄付金・協賛金について

寄付金・協賛金については、公式ホームページに情報を掲載するなど、市内外に向け広く募集を行った。地震の影響により、営業活動も難しい状況が続いたが、多くの寄付・協賛が寄せられた。

また、ふるさと納税に関しては、企業版ふるさと納税が2020年度から創設され、税制面での優遇が拡充されたことにより、さらに活用しやすくなり、市外の法人へは企業版の活用を働きかけた。

i. 寄付・協賛（実行委員会へ直接寄付いただいたもの）

（単位：件/円）

	寄付		協賛		役務提供		合計	
2022～ 2023 年度	4	80,000	17	10,050,000	2	625,500	23	10,755,500

ii. ふるさと納税（珠洲市へ寄付）

（単位：件/円）

	個人		企業版		合計	
2022～ 2023 年度	1,635	20,189,000	99	35,600,000	1,734	55,789,000

※ふるさと納税のうち寄付金の目的を「芸術祭」及び「珠洲市におまかせ」を珠洲市で振り分けたもの。

（協賛ボード）

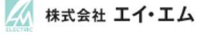
奥能登国際芸術祭2023 | 助成・協賛・後援一覧 |

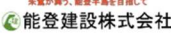
〔助成〕

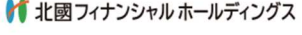


〔協賛〕











〔寄 付〕

池上 智 中川千英子

〔特別協力〕

北國新聞社

令和5年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 | 一般財団法人地域創造 Japan Foundation for Regional Art-activities | 公益財団法人 澁谷学術文化スポーツ振興財団
 興能信用金庫 珠洲管工事協同組合 一般社団法人珠洲建設業協会 珠洲石油業協会 のと鉄道株式会社
 野村證券株式会社金沢支店 有限会社舟見不動産 株式会社万蔵

〔後援〕 金沢経済同友会 北陸放送 テレビ金沢 エフエム石川 ラジオかなざわ ラジオこまつ ラジオなお

2-(2)-③ 助成金・補助金について

奥能登国際芸術祭の開催に向け、2022 年度 2023 年度の 2 年間において、珠洲市及び奥能登国際芸術祭実行委員会等が交付を受けた助成金・補助金については、以下のとおりである。

(珠洲市分)

(単位：千円)

助成金・補助金など	2022 年度	2023 年度	合計
地方創成推進交付金・ 臨時交付金（内閣府）	10,000	10,500	20,500
文化芸術振興費補助金 （文化庁）	2,706	21,651	24,357
地域の文化・芸術活動助成 （一般財団法人地域創造）	5,921	7,470	13,391
合 計	18,627	39,621	58,248

(実行委員会分)

(単位：千円)

助成金・補助金など	2022 年度	2023 年度	合計
文化活動に対する助成 （公益財団法人澁谷学術文化 スポーツ振興財団）	—	3,000	3,000
合 計	—	3,000	3,000

2-(2)-④ 収支の状況（奥能登国際芸術祭実行委員会会計）

奥能登国際芸術祭の開催に要した実行委員会予算については、2022 年度 2023 年度の 2 年間で 470,776 千円であり、収入の中で大きな割合を占めるのは珠洲市からの負担金である。その原資となったのは珠洲市地域振興基金であり、負担金として開催準備事業や PR をはじめとした開催推進事業に充当されたほか、作品会場整備も含めた開催運営費などに対しても充当がなされてきた。また、こうした市負担金の実質上、実行委員会会計における運転資金としての役割を果たしているのが実態であり、各年度末には収支を精算の上、残余の金額については市会計へ戻し入れしている。

■歳入

(単位：千円)

	2022 年度	2023 年度	合計
珠洲市負担金	90,275	282,546	372,821
国庫補助金	12,706	32,151	44,857
その他助成金	5,921	7,470	13,391
ふるさと納税	17,600	38,189	55,789
珠洲市一般財源	54,048	204,736	258,784
珠洲商工会議所負担金	500	1,000	1,500
寄附・協賛金	1,300	8,830	10,130
その他助成金・補助金	—	5,788	5,788
事業収入	3,777	74,398	78,175
雑入	533	1,829	2,362
合計	96,385	374,391	470,776

■歳出

(単位：千円)

	2022 年度	2023 年度	合計
地域活性化推進事業費	35,112	39,699	74,811
奥能登国際芸術祭 推進事業費	16,968	23,067	40,035
奥能登国際芸術祭 2023 開催（準備）事業費	36,392	292,007	328,399
事務局総務費	7,913	19,618	27,531
合計	96,385	374,391	470,776

2-(3) 運営体制における検証

2-(3)-① 実行委員会体制

開催に向けて具体的に取り組みを進めるにあたり、よりスピーディーな意思決定と機動的な事業実施を求める観点から、議決機関たる「実行委員会」については定員 30 名を上限とし、このほか、趣旨に賛同する「会員」がそれぞれ専門分野である「地域」「議員」「産業」「学術文化」「観光」の 5 つの「部会」に分かれて所属・登録する形とした。これにより、市内各界・各分野における各種団体等のリーダーが実行委員に就任していただくこととなった。

実行委員会では、各年度における総会のほか、適宜役員会を開催し運営方針や各種企画等の立案や検討、進捗状況の確認を行うなど、実務的な議論による運営を行った。

<体制の沿革>

2014 年 3 月	民間主導のもと「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」発足
2015 年 4 月	珠洲市に「奥能登国際芸術祭開催準備室」を設置
〃 5 月	奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会を発展的に解散し、 「奥能登国際芸術祭実行委員会」に改編
2017 年 9 月	「奥能登国際芸術祭 2017」開催
2018 年 3 月	珠洲市奥能登国際芸術祭開催準備室を解散
2018 年 4 月	珠洲市企画財政課芸術祭推進係を設置し、 奥能登国際芸術祭実行委員会事務局を運営
2019 年 4 月	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室を新設し、 奥能登国際芸術祭実行委員会を運営
2021 年 9 月	「奥能登国際芸術祭 2020+」開催
2023 年 4 月	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室と教育委員会文化創造室を統合し、 珠洲市芸術文化創造室を設置 奥能登国際芸術祭実行委員会を運営
〃 9 月	「奥能登国際芸術祭 2023」開催



2-(3)-② 事務局体制

2023 年 4 月から珠洲市奥能登国際芸術祭推進室と文化創造室を統合し、新たに「芸術文化創造室」として業務を開始した。また、市職員に加え珠洲商工会議所からの職員派遣を受け、開催に向けた運営体制を整えた。

事務局においては、基本的に週 1 回スタッフ全員（市職+サポートスズ+アートフロントギャラリー）参加での定例会議を開催したほか、毎月 1 回程度を拡大会議（+市関係各課、珠洲商工会議所）、また、総合ディレクターも含めたディレクター会議（全体会議）を行うなど、進捗状況の確認や情報共有を図った。

<人員>

	市	会議所
事務局長	1	
次長		1
事務局員	4	2
臨時職員		2

※スズ・シアター・ミュージアム/分館/潮騒レストラン担当として、
市（芸術文化創造室）から 1 名配属

<主な役割分担>

- ① 総務・営業班……総務、財務、パスポート販売、ツアー・視察対応など
- ② 運営班……会場管理、誘導看板設置など
- ③ 広報班……メディア対応、広報物作成、ホームページ・SNS 管理など
- ④ 作品制作・管理班……基盤整備、作家視察、会場交渉など
- ⑤ サポーター班……サポーター運営、受付管理など
- ⑥ 総合受付班……インフォメーション、総合案内など
- ⑦ 交通・移動班……すずアートバス、お宿送迎バス管理など
- ⑧ 公式行事班……開幕式、閉幕式、企画発表会など

2-(3)-③ 行政職員等の連携

作品制作や会場準備において、サポーターが不足している場合は市職員の協力により対応した。会期中の受付業務についても、各部署に受付会場を割り当て、作品会場ごとのマニュアルに基づいた円滑な運営を行った。また、作品の修繕やメンテナンスなど職員の応援を依頼し、特に週末など来場者が多い日は、職員を増員するなど柔軟に対応することで、全面的なバックアップ体制を整えた。

■市職員の協力人数について（のべ人数）

	作品制作期	会期中	作品撤去期	合計
市職員数	3 人	846 人	12 人	861 人

2-(3)-④ 関係機関との連携推進

2019 年 3 月に、金沢 21 世紀美術館、金沢美術工芸大学、実行委員会と三者において連携・協力協定の締結を行っており、今芸術祭においても引き続き誘客促進など取組強化を図った。

また、2023 年 6 月には、これまで「大蔵ざらえプロジェクト」や「スズ・シアター・ミュージアム」において、民具の収集や監修など携わった国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市：西谷大 館長）と、民具の保存活用や調査研究などに向け協定を締結した。今回作品会場ともなった「スズ・シアター・ミュージアム分館」での企画・監修も行った。



2-(3)-⑤ サポーター・ボランティアや地域住民との協働

第 1 回の芸術祭を契機に、2019 年 3 月一般社団法人サポートスズが組織され、芸術祭業務の支援、サポーターの運営など、芸術祭のあらゆる面での幅広い協力で地域を取り込む大きな原動力となっている。

芸術祭は、制作活動の動員、会期中の受付など、サポーター、地域住民の協力は必要不可欠であり、サポートスズは、サポーター、地域住民と運営側の調整役を一手に引き受けた。これまでの芸術祭を通したネットワークを活かしながら、積極的に地域や各公民館等に赴き、芸術祭の説明や活動内容の紹介、地域での交流など活動を展開したことにより、地域住民の理解も深まりサポーター、協力者も増加している。

また、9 月 2 日には、金沢 21 世紀美術館において「金沢ボランティア説明会」を企画し、市外からのサポーターへの参加・募集を呼び掛けた。その結果、今回は、北陸大学など県内外の 4 つの大学から作品制作や受付など参加のほか、首都圏で P R 等を行うなど情報発信で大きく貢献した。

2-(3)-⑤i 登録サポーター状況 (2023 年 12 月 31 日現在)

登録者数	834 人	うちサポーツ事務局スタッフ 4 人
参加者	184 人	参加率…22%
男女比	男 3 : 女 7	男性 286 人 : 女性 545 人 : その他 3 人
登録国	6 国と地域	日本、台湾、香港、ベルギー、アメリカ、カナダ
地域別	市内 181 人	上戸地区 31 人、飯田地区 27 人、宝立地区 27 人、正院地区 18 人、大谷地区 18 人、若山地区 17 人、三崎地区 16 人、蛸島地区 15 人、直地区 11 人、日置地区 1 人
	市外 290 人	金沢市 151 人、輪島市 38 人、能登町 21 人、野々市市 13 人、七尾市 11 人、かほく市 10 人、能美市 9 人、白山市 9 人、小松市 8 人、羽咋市 5 人、加賀市 5 人、河北郡 4 人、鹿島郡 4 人、穴水町 2 人
	県外 337 人	東京都 95 人、神奈川県 31 人、大阪府 22 人、香川 22 人、千葉県 18 人、京都府 13 人、長野県 11 人、兵庫県 10 人、その他 115 人
	海外在住 26 人	台湾 15 人、香港 5 人、ベルギー 2 人、アメリカ 2 人 (日本人)、カナダ 1 人、オーストラリア 1 人

(資料：サポーツズ)

※会期以外でも、常設作品の清掃、周辺の草刈り、ツアー時の対応など、作品管理をはじめとした活動を行っている。

2-(3)-⑤ii サポーター活動人数

サポーター活動では、地域住民をはじめ企業サポーターなど、作品制作をはじめ会場準備、さらには会期中の受付業務などで活躍した。

会期中は、サポーツズを中心に、毎朝 8 時から、ラポルトすず前 (雨天時はロビー) で朝礼を行い、サポーターやスタッフの配置、確認事項の伝達等を行うほか、毎日、サポーターやスタッフ向けに必要情報が掲載された「SUZU レター」が発行され、わかりやすく好評であった。

■活動人員 (2023 年 4 月～)

のべ人数		作品制作	会期中	作品撤去	合計
サポーター登録者	市内	64 人	195 人	13 人	272 人
	市外	61 人	208 人	12 人	281 人
地元有志		96 人	850 人	17 人	963 人
登録なし (市外)		74 人	141 人	6 人	221 人
合計		295 人	1,394 人	48 人	1,737 人

■市職員、珠洲商工会議所職員の協力人数について

のべ人数	作品制作	会期中	作品撤去	合計
市職員、珠洲商工会議所職員	19 人	859 人	18 人	896 人

合計	314 人	2,253 人	66 人	2,633 人
----	-------	---------	------	---------

2-(3)-⑤iii 企業サポーター

珠洲商工会議所の会員を中心に、会期中の受付業務など支援可能な事業所等を募集した。受付業務を担う事業所に対しては、事前に、受付会場で作品の説明や受付方法等の運営方法を説明し、会期中は円滑な運営に努めた。

■登録事業者数（登録人数）

企業サポーター数	4 事業所（78 人）
----------	-------------

2-(3)-⑤iv 地元協力者について

サポーター登録の有無にかかわらず、地域住民による受付やおもてなし等での協力や、準備・撤収など自発的な活動が市内各地で見られ、企業や団体によっては会期中を通して組織的に関わった。

また、交通渋滞が予測される会場については、土・日・祝日に交通推進隊の協力によって、交通整理や駐車場への誘導など来場者の安全管理が図られた。

事務局が把握した活動のうち、その主なものは以下のとおり。

地区	No	場所	内容
大谷	1	旧清水保育所	作品案内、会場管理
	2-3	スズ・シアター・ミュージアム	会場管理、来場者誘導、交通誘導イベント協力
日置	9-10	木ノ浦野営場、木ノ浦海岸	会場管理
	12	旧日置公民館	駐車場整理、交通誘導、物産販売（土日）
三崎	14-15	旧粟津保育所	会場管理、物産販売（土日）、イベント協力
	16	内方の倉庫	作品受付、会場管理
	17	旧本小学校体育館	作品受付、会場管理、物産販売

地区	No	場所	内容
三崎	18	旧小泊保育所	会場管理
蛸島	22	島崎家	物産販売、会場管理、WS協力
正院	24	旧正院駅	会場管理
	25	旧飯塚保育所	駐車場整理（イベント時）、昼食販売（イベント時）
飯田	29	旧時計店	作品説明、会場管理
	31	飯田町商店街	作品管理、イベント協力
上戸	33	北方の民家	会場準備、作品受付
宝立	38	春日野の蔵	制作協力
	39	旧鵜飼駅	制作協力、駐車場整理、交通誘導
	40	旧柏原保育所	作品受付、会場管理
	42	旧鵜島保育所	制作協力、会場準備、作品受付、会場管理、イベント協力
若山	43-45	旧上黒丸小中学校	制作協力、会場準備、会場管理、駐車場整理
	46	吉ヶ池の民家	制作協力、会場準備、会場管理、物産販売
	47	北山の棚田	制作協力、会場準備、作品案内、物産販売

(サポーター活動等の様子)



2-(4) 個々の取り組みの検証

2-(4)-①案内体制

2-(4)-① i 公式インフォメーションセンター

奥能登国際芸術祭の総合案内機能として、来場者の導線を考慮し内浦側（ラポルトすず）、外浦側（潮騒レストラン）にそれぞれインフォメーションセンターを1箇所ずつ配置した。スタッフ常駐のもと情報提供及び公式グッズの販売等も行ったことから、会期中は来場者が多く見られた。また、市の玄関口でもある「道の駅すずなり」では、すずなりスタッフが窓口となり、作品会場の案内をはじめ、市内観光情報や宿泊施設の案内など対応にあたった。

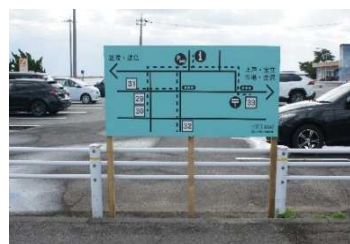
■公式インフォメーションセンター販売実績（9月23日～11月12日）

分 類	売 上 額
公式グッズ	4,586,670 円
ガイドブック	2,037,100 円
作品鑑賞パスポート	7,943,650 円
合 計	14,567,420 円



2-(4)-① ii サイン看板/のぼり旗

来訪者を案内するための仮設案内看板については、主要道路沿いや作品会場周辺を中心に約450基を設置した。しかし、表記がわかりにくい、看板を見つけないなどの苦情が一部寄せられたため、設置個所の増設、看板の記載内容の修正、追加記載等を実施した。のぼり旗についても、作品会場、会場の入口を中心に設置し、のぼり旗を目印として作品を探す旨を案内した。



2-(4)-①iii 案内用ツール（ガイドブックなど）

案内用のツールとして、公式ガイドブック、公式ウェブサイトを作成した。

公式ガイドブックについては、作品情報とともに巡り方やバス時刻表、エリア別での立ち寄り・土産・飲食情報等を網羅し、さながら「本市全体でのガイドブック」のような内容となったことで、来場者のみならず、市民にとっても貴重な情報源になったものと思われる。

会場マップについては、ガイドブックで詳細に書き込みができなかった各作品会場などを掲載した紙媒体と、それに加え、携帯電話でも市内の観光スポット、飲食店、宿泊施設、緊急避難場所など、市内の各種情報を掲載した「珠洲市デジタルマップ」とも連動しながら、（携帯）画面を見ながら作品会場までのルートが案内できるよう対応した。

（公式ウェブサイトについては、「2-(4)-④iii公式ウェブサイトの展開」にも掲載。）

■公式ガイドブック

発売日 : 2023/7/25

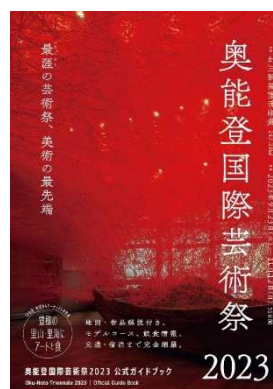
ムック : 160 ページ

ISBN-10 : 4773823054

ISBN-13 : 978-4773823059

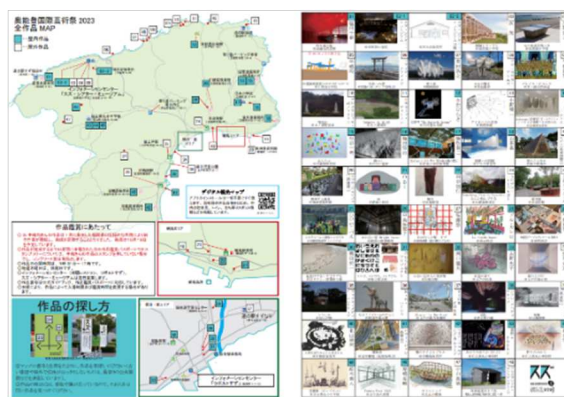
本サイズ: A5 版

価格 : 1,300 円(税込み)



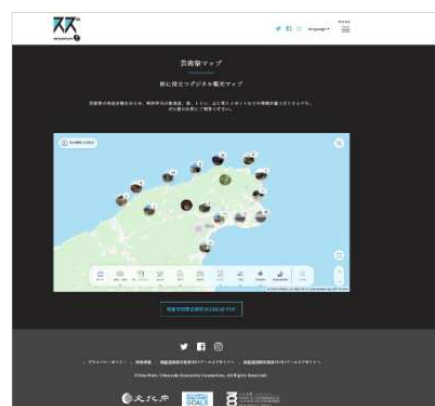
■ガイドマップ

<紙媒体>



A3 両面二つ折り

<デジタルマップ>



作品説明やルート検索・案内

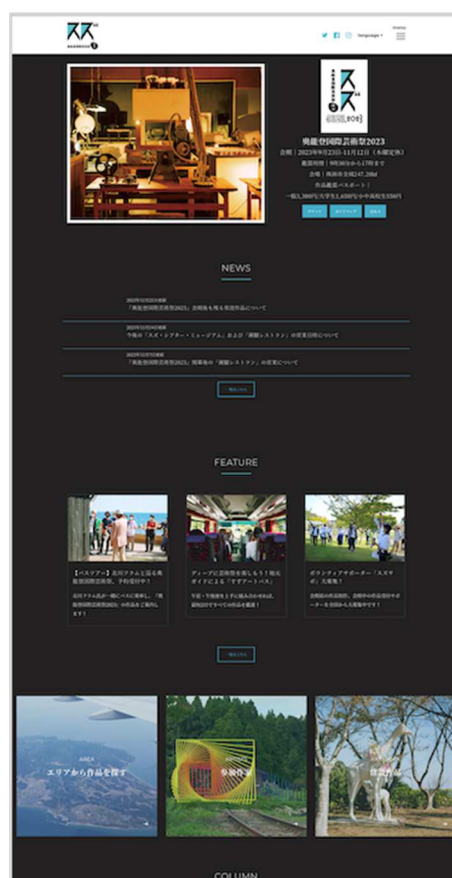
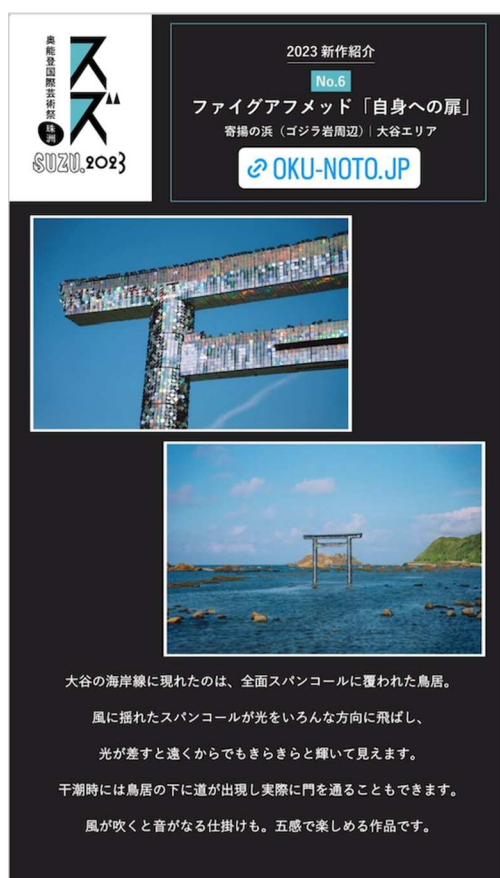
■公式ウェブサイト

（集計期間：2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日）

アクセスユーザー数：188,607 人

地域内訳：日本 90%（東京都 34.0%、石川県 14.6%、大阪府 8.5%、愛知県 9.6%ほか）
海外 10%（台湾 1.8%、ベトナム 1.5%、マレーシア 1.5%ほか）

※日本語の他、英語、中国語（繁体・簡体）でも翻訳



2-(4)-② 交通システム

2-(4)-② i 作品鑑賞バス「すずアートバス」

初めての来市で地理に不安のある方や、徒歩や公共機関で行きづらい作品も、効率よく安心して鑑賞していただくため、作品鑑賞バス「すずアートバス」を運行した。

午前 2 コース（A・B コース）、午後 2 コース（C・D コース）の 1 日合計 4 コースを運行するとともに、全てのバスに地元ガイドが乗車し、作品や地域情報を提供した。また、今回から土・日・祝日のみ A コースと B コースを合わせた 1 日満喫コース（E コース）を運行し、計 191 本、延べ 2,141 人の方にご利用いただいた。

■すずアートバス運行実績

	コース	利用者数	
午前	A コース（三崎～日置～大谷方面）13 作品	43 本	446 人（3）
	B コース（若山～大谷方面）12 作品	43 本	476 人（2）
午後	C コース（正院～蛸島～三崎方面）11 作品	43 本	459 人（0）
	D コース（宝立～上戸～飯田方面）12 作品	44 本	442 人（3）
1 日	E コース（上記午前便、午後便を選択）	18 本	318 人（5）
合 計		191 本	2,141 人（13）

※木曜日：運休

※（ ）は小人

※平均（455 人/コース、10 人/本）E コースを除く

※登録ガイド数：28 名

■利用者の内訳

	利用者数	割合
珠洲市内	57 人	3%
石川県内	444 人	21%
関東	1,035 人	48%
関西	288 人	13%
その他国内	216 人	10%
海外	101 人	5%
合 計	2,141 人	



2-(4)-② ii お宿送迎バス

前回から、宿泊施設への交通手段が少なかったことを踏まえ、道の駅すずなりを拠点に、市内宿泊施設（飯田町を除く）へ送迎を行うバスを運行した。宿泊施設が市内でも分散していることから、東回り（正院～蛸島～三崎～日置）と西回り（上戸～宝立～大谷）の2ルートを設定し来訪者の利便性向上を図った。

■お宿送迎バス運行実績

	コース	利用者数	
東回り	すずなり発	23 本	78 人
	すずなり着	26 本	91 人
西回り	すずなり発	21 本	41 人
	すずなり着	26 本	63 人
合 計		96 本	273 人

料金：片道券 大人 1,000 円／小人 500 円

すずなり着 9：00 / 発 17：45

2-(4)-②iii レンタサイクル

道の駅すずなりが主体となり、2022 年から、市内観光施設や宿泊施設等と連携しながら、周遊コースを作成するなどレンタサイクル事業を展開している。芸術祭についても、自転車で作品を周るコースも作成するなど展開していた。

利用時間	料金
～3 時間	1,000 円
～8 時間	2,500 円
1 泊 2 日	4,000 円



2-(4)-②iv レンタカー利用状況

閉会後に取りまとめられた来場者アンケートによれば、来場者の交通手段においては自家用車に次いでレンタカー利用をあげる来場者が多い状況であった。これを踏まえ、会期を含む 9 月・10 月における珠洲市レンタカー利用者宿泊助成制度の実績は以下のとおり。

(珠洲市レンタカー利用者宿泊助成制度利用状況)

レンタカーを借りて市内で宿泊した方に、レンタカー 1 台当たり 3,000 円/泊を助成。

■ レンタカー利用宿泊者数

	2021 年	2023 年	増減比
9 月	235 人泊	217 人泊	92.3%
10 月	320 人泊	362 人泊	113.1%
合計	555 人泊	579 人泊	104.3%

※助成金に該当するレンタカーに乗車し宿泊した人泊数。

■ レンタカー助成申請者数

	2021 年	2023 年	増減比
9 月	181 人	161 人	88.9%
10 月	246 人	263 人	106.9%
合計	427 人	424 人	99.2%

※年月については助成金申請日ベース。

2-(4)-②v のと里山空港利用状況

のと里山空港発着の羽田ー能登便(1 日 2 往復)については、新型コロナの影響によって、2021 年については搭乗者数が減少していたが、コロナ禍が明けた後は搭乗者数が増加し、奥能登国際芸術祭 2023 の会期中についても、前年比で搭乗者数が増加している。

■ 羽田能登便搭乗者数

	2021 年	2023 年	増減比
9 月	2,640 人	10,761 人	407.6%
10 月	5,717 人	13,321 人	233.0%
合計	8,357 人	24,082 人	288.1%

2-(4)-②vi 珠洲特急バス利用状況

本市と金沢を結ぶ公共交通の大動脈「珠洲特急線」。会期中は通常の往復3便に加え、臨時に、早朝金沢を出発する便と、夕方珠洲を出発し、金沢駅から東京駅への最終の新幹線に乗り換え可能な往復1便を増便して対応した。

飛行機の利用が増加した分やレンタカーが増えた分により、特急バスの利用に関しては、若干減少した結果となった。

■珠洲特急バス利用状況（会期中）

（珠洲発～金沢）

	2021 年	2023 年	増減比
6:20	588 人	570 人	96.9%
8:50	926 人	874 人	94.4%
13:20	769 人	602 人	78.3%
※17:30	415 人	368 人	88.7%
合計	2,698 人	2,414 人	90.8%

（金沢発～珠洲）

	2021 年	2023 年	増減比
※ 8:30	270 人	353 人	130.7%
10:40	673 人	658 人	97.8%
14:20	872 人	690 人	79.1%
17:30	387 人	384 人	99.2%
合計	2,202 人	2,085 人	94.7%

2-(4)-②vii 渋滞・駐車場対策

芸術祭開催前から、交通・駐車場対策については懸念される点が多く、事前に珠洲警察署や奥能登土木事務所等の関係機関とも協議を行った。一部の作品会場付近では十分な駐車スペースを確保することが困難な場所もあることから、路上駐車によって通行に支障があったものの、特に週末の混雑時を中心に各地区の交通推進隊の協力、警備会社による交通誘導などで対応した。会期中の交通面において大きな事故・トラブルはなかった。

また、公共スペースのみならず、近隣の私有地を借り上げるなど駐車場の確保に努めたが、渋滞や駐車場整理については、依然として全作品の対応が難しく課題となっている。

2-(4)-③ 受け入れ・もてなし

2-(4)-③ i 食の提供

前回の課題も含め、市内で飲食できるような取り組みとして、スズ・シアター・ミュージアムに「潮騒レストラン」が整備された。作品の一つでもあり、インフォメーションセンター・飲食店舗も兼ねるこのレストランは、金沢市に本社がある〈ぶどうの木〉の総料理長米田岳人氏がメニューを監修し、試食会など行い検討を重ねた上で、地元の食材を活用したメニューを決定した。また、「日本の祭と食文化の源流を探る」をコンセプトに、地域の秋祭りシーズンでの芸術祭開催であったことから、能登の秋祭りで行われる「よばれ」の風習にちなみ、市内 8 店舗の飲食店や宿泊施設において、「よばれ」料理をモチーフにした「珠洲まつり御膳」の提供を継続して実施した。

■珠洲まつり御膳

市内の飲食店や宿泊施設で、「よばれ」料理をモチーフにした御膳料理を提供。



■スズ定食の提供

珠洲商工会議所と道の駅すずなりを運営する NPO 法人能登すずなりが、珠洲の海藻とタコを使った「スズ定食」を考案し、市内の飲食店で提供した。同市を訪れた観光客に珠洲の食をアピールするため初めて実施された。



■市内 8 店舗 273 食

2-(4)-③ ii その他食の提供

会期中、空き施設（旧上戸保育所）を活用し、能登井事業協同組合が能登井弁当の販売を行った。参加店舗それぞれのオリジナル弁当が並ぶなど、来場者に好評をいただいた。また、道の駅能登すずなりにおいても販売するなど、新たな拠点づくりと販路拡大につながった。



※能登井とは

奥能登地区 2 市 2 町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）の組合加盟店舗（41 店舗）が提供する地元素材を使ったオリジナル丼。奥能登の米と水、地場でとれた旬の食材を使用し、器も箸も能登産で、箸はお客様にプレゼントするなど観光誘客への取組を展開。

2-(4)-③ iii 食プロジェクト

古くから受け継がれてきた伝統行事や、美しい里山里海から四季折々にもたらされる豊かな旬の食材を活かした珠洲市の食文化を、作家や料理人と協働して魅力を発信するとともに、その文化の継承や新たな担い手の育成など取り組みを進めている。奥能登国際芸術祭 2023 においては、5 月の地震の影響によって、本プロジェクトは一時中断となった。

■食プロジェクト推進委員会

珠洲の「食」の発展を目指して、日ごろから活動を行っている方々をメンバーに、珠洲の食文化持続的創造プロジェクト（食プロジェクト）推進委員会を立ち上げた。プロジェクトとして、珠洲の食文化を知り、食の提供を通して魅力を発信し、継承する人材を育てるという 3 つの方針を固め実現に向けて活動を行っている。

■第 2 回食のフラム塾

開催日：2023 年 3 月 19 日（日）

場所：料理民宿「田崎荘」

参加者：19 名

講師：江部拓弥氏（グルメライター）



■第3回食のフラム塾

開催日：2023年3月29日（水）

場所：木ノ浦ビレッジ

参加者：6名

講師：小野塚知二氏（東京大学特命教授）



■のと Food Studies 連携事業「能登の食文化継承事業」

- ・ 2022年7月30日（土）第1回能登の食材セミナー（さいはてのキャバレー）
- ・ " 9月24日（土）第2回能登の食材セミナー（すず市民交流センター）
- ・ 11月19日（土）食のシンポジウム（鉢ヶ崎サテライトオフィス）
- ・ 11月19日（土）食談義「さいはて御膳」（珠洲ビーチホテル）



2-(4)-③iv 公式グッズ制作・販売

公式ガイドブックや作品鑑賞パスポートのほか、デザイナー浅葉球氏がデザインした公式グッズを潮騒レストラン（インフォメーション）などで販売した。

■公式グッズ販売実績

(単位：点／円)

	商品名	販売価格 (税込み)	販売数	売上額
公式 グッズ	タイベックバッグ (2 種)	3,300	202	666,600
	TシャツAタイプ	3,300	126	415,800
	Tシャツ (2 種)	2,750	169	464,750
	帽子 ハット (2 種)	3,300	78	257,400
	帽子 キャップ (2 種)	3,300	74	244,200
	手ぬぐい (4 種)	1,650	652	1,075,800
	ポストカード (5 種)	165	778	128,370
	ポストカード (セット)	660	37	24,420
	ボールペン (2 種)	550	380	209,000
	クリアファイル (3 種)	220	1,053	231,660
	缶バッジ (13 種)	220	1,573	346,060
	靴下 (5 種)	1,100	321	353,100
	小計		5,591	4,417,160
書籍等	ガイドブック	1,300	1,567	2,037,100
	2017 記録集	2,530	21	53,130
	2020+記録集	2,750	26	71,500
	小計		1,614	2,161,730
合計			7,205	6,578,890



■公式グッズ

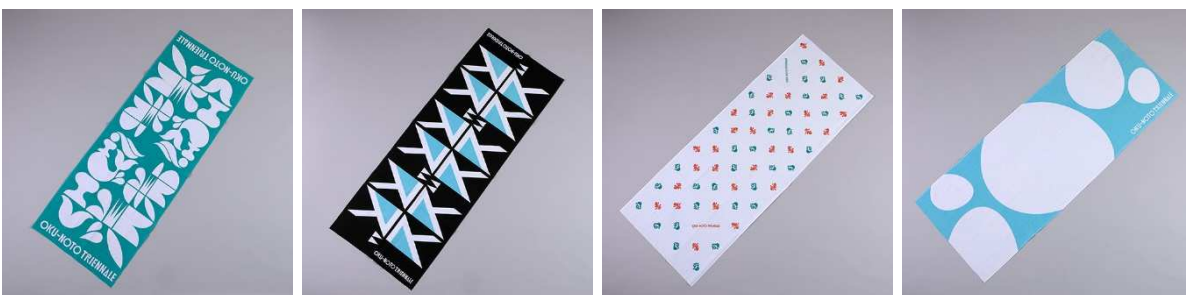
<タイベックバッグ>



<Tシャツ>



<手ぬぐい>



<帽子／靴下>



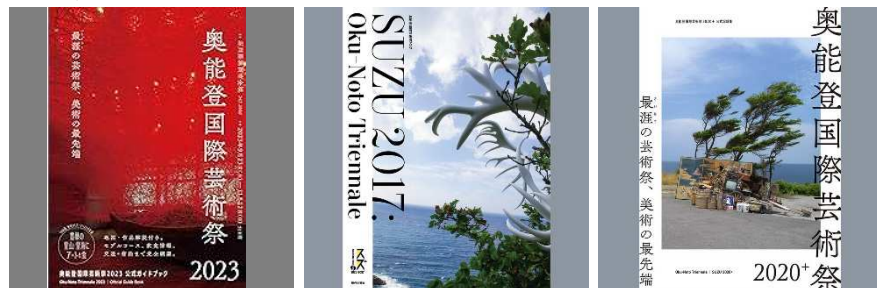
<クリアファイル>



<缶バッジ／ポストカード／ボールペン>



<書籍>



■オンラインショップの展開

公式グッズの販路拡大にむけ、北陸を中心に展開するECサイト「COREZO」に出店した。これまで製作した芸術祭グッズやミュージアムグッズ、また、奥能登国際芸術祭 2017 に実施したリデザイン事業により開発した商品の販売を展開した。

「COREZO」ECサイト <https://shopping.corezo.co.jp/>
(令和6年能登半島地震の影響により、現在は閉鎖中)



2-(4)-③v 市内「道の駅」利用状況

市内に 3 か所、それぞれが車で約 30 分の等間隔にある「道の駅」は、芸術祭で本市を訪れる多くの方々にとって、移動の拠点となった。入込客数、売上額については、前回の芸術祭と比較するとほぼ上回るなど賑わいをみせた。会期中の市内道の駅 3 か所における入込客と物販売り上げは以下のとおり。

■入込・売上の推移（9 月～11 月）

		2021 年	2023 年	増減比
道の駅 すずなり	入込客数	15,735 人	17,442 人	110.8%
	物販売上	23,896 千円	28,993 千円	121.3%
道の駅 すず塩田村	入込客数	16,083 人	22,971 人	142.8%
	物販売上	9,284 千円	18,225 千円	196.3%
道の駅 狼煙	入込客数	6,581 人	6,163 人	93.6%
	物販売上	10,237 千円	11,745 千円	114.7%
合計	入込客数	38,399 人	46,576 人	121.3%
	物販売上	43,417 千円	58,963 千円	135.8%

※2021 年：奥能登国際芸術祭 2020+（9/4～11/5）ただし 11 月分調査なし。

2-(4)-③vi 「作品鑑賞パスポート特典」利用状況

会期中、市内の飲食店や宿泊施設などでパスポートを提示することにより、各種優待サービスを受けることができる「作品鑑賞パスポート利用特典」の実施状況は以下のとおり。

■パスポート特典の概要

実施期間	2023 年 9 月 23 日～11 月 12 日		
対象施設	市内 41 の店舗・施設 【内訳】小売店舗 13 （お土産、塩、菓子、酒等） 飲食店 9 宿 5 施設 3 （道の駅など） その他 11 （各種サービス）		

■パスポート特典の利用件数

市内 41 の店舗・施設のうち 24 店舗・施設から回答があった。期間中に提供したパスポート特典の件数は 6,314 件で地区別にみると、道の駅すずなりがある直地区（39.8%）が一番多く、上戸地区（27.0%）と続く。内容別にみると、お土産などを販売する小売店舗（53.3%）や道の駅、などの施設（42.6%）が多く利用された。

■利用件数の内訳

(単位：件)

	小売店	飲食店	宿	施設	その他	合計	割合
大谷	9	120		531		660	10.5%
日置				400		400	6.3%
三崎				300		300	4.8%
蛸島			9			9	0.1%
直	10			2,500		2,510	39.8%
飯田	423	197			10	630	10.0%
上戸	1,700				2	1,702	27.0%
宝立	100				3	103	1.6%
計	2,242	317	9	3,731	15	6,314	

※地震の影響により回答のあった店舗/件数のみを掲載。

2-(4)-③vii 宿泊及び飲食について

宿泊施設や飲食店については、地震の影響もあり、営業を断念する店舗が数件あった。実行委員会としては、各店舗へ情報収集しながら、公式ガイドブックに掲載するなど情報提供に努めた。宿泊施設については、能登すずなりが窓口となり、相談対応を行ったほか、宿泊施設までの交通手段として、道の駅すずなり発着の「お宿送迎バス」を運行し来場者の利便性向上を図った。

また、飲食関係については、上記の他に会議所が製作した「ランチ&ディナーMAP」などを配布し、昼食がとれる飲食店情報の提供を行った他、旧上戸保育所において、能登井事業組合が中心となり、弁当の販売等を行うなど、事業者にとっても、さまざまな可能性を感じさせるものとなった。

■入込者数 合計（9月～11月）

	2021 年	2023 年	増減比
日帰り	189,080 人	255,306 人	124.4%
宿泊者	11,595 人	10,037 人	86.6%
合計	200,675 人	265,343 人	132.2%

■日帰り入込客数（9月～11月）

	2021 年	2023 年	増減比
観光拠点	142,960 人	197,698 人	138.3%
イベント	46,120 人	57,608 人	124.9%
合計	189,080 人	255,306 人	135.0%

※芸術祭来場者を含む。

■市内宿泊客数（9月～11月）

	2021 年	2023 年	増減比
旅館・ホテル	7,538 人	6,845 人	90.8%
民宿など	2,523 人	2,629 人	104.2%
キャンプ場	1,534 人	563 人	36.7%
合計	11,595 人	10,037 人	86.6%

2-(4)-③viii 「日置ハウス」利活用状況について

廃校となった旧日置小中学校を改築し、日置地区の滞在交流の拠点として 2017 年 6 月にオープンした滞在交流施設日置（日置ハウス）は、芸術祭においても作品制作のため滞在するアーティストや、市外から集まったサポーターの宿舎として役割を果たしている。利用者については、民宿と比べ安価な料金で宿泊できることから、長期間で滞在を予定している利用者にとっては好評を得ていた。

また、サポーターについては、実行委員会から宿泊を一部助成するなど、サポーター組織拡充へむけた取り組みも行った。

■芸術祭関係宿泊者数

	作品制作期	会期中	作品撤去期	合計
サポーター	147 人泊	403 人泊	8 人泊	558 人泊

2-(4)-③ix 視察対応・ツアー受入状況

芸術祭期間中にかかるツアー、視察対応は、以下のとおりとなった。視察では、オーストラリア大使館をはじめ、文化庁、北アルプス国際芸術祭等の各事務局の視察もあった。ツアーは、ほっこく観光、クラブツーリズムが旅行商品として開発。

また、市内小学校児童も、学校活動の一環として地元作品を中心に鑑賞を行った。

■視察対応・ツアー受入集計）

	件 数	人 数
視察	17 件	167 人
ツアー	86 件	2,210 人
計	103 件	2,377 人

(視察対応状況)

月日	団体名	受入人数
10月2日	北アルプス国際芸術祭実行委員会	46
10月3日	北アルプス国際芸術祭実行委員会	44
10月8日	鳥取県美術館	6
10月9日	鳥取県美術館	6
10月13日	中部観光株式会社	3
10月17日	金沢市長	2
10月22日	岐阜県知事	
10月25日	文化庁	4
10月26日	文化庁	3
10月27日	福島県富岡町	
10月28日	石川県中小企業家同友会	
10月29日	福武財団	
10月30日	福武財団	
10月31日	森の芸術祭事務局	4
11月1日	森の芸術祭事務局	4
11月2日	森の芸術祭事務局	4
11月6日	オーストラリア大使館	
11月6日	さいたま国際芸術祭実行委員会	2
11月7日	さいたま国際芸術祭実行委員会	2
11月7日	石川県議会	4
11月7日	十日町市部長	2
11月8日	十日町市部長	2
11月8日	石川県中小企業青年中央会	6
11月9日	内房総アートフェス実行委員会	4
11月10日	内房総アートフェス実行委員会	4
11月10日	北陸 DC 全国宣伝販売促進会議エクスカーション	15
	合計 17 回	167

(ツアー受入状況)

月日	ツアー・団体名	参加人数
9月22日	オープニングツアー（実行委員会主催）	76
9月23日	オープニングツアー（実行委員会主催）	57

9月25日	野々市市各種女性連絡協議会	20
9月25日	小松能美食品衛生協会指導員部会	8
10月1日	ツアーシステム【旅ぼっけ】	39
10月2日	珠洲労働基準協会	
10月4日	SMLXL トラベル【台湾】	12
10月4日	クラブツーリズム【B3181】	7
10月5日	SMLXL トラベル【台湾】	12
10月5日	金沢地域ライフ・サポートセンター	35
10月6日	東南旅行社【台湾】	72
10月7日	トラベル愛ランド【和倉発着アートバス】	2
10月8日	北川フラムと巡るツアー	
10月8日	トラベル愛ランド【和倉発着アートバス】	3
10月9日	トラベル愛ランド【和倉発着アートバス】	1
10月10日	東南旅行社【台湾】	92
10月11日	宝立小中学校	40
10月11日	国際交流基金【オーストラリア・ニュージーランド】	5
10月13日	新進旅行社【台湾】	17
10月14日	東南旅行社【台湾】	71
10月14日	新進旅行社【台湾】	17
10月14日	長計会	8
10月14日	洪秀華ツアー【台湾】	16
10月15日	洪秀華ツアー【台湾】	16
10月15日	北川フラムと巡るツアー	
10月16日	洪秀華ツアー【台湾】	16
10月16日	飯田小学校	29
10月16日	北鉄金沢バス【あすなろツアー】	31
10月16日	太平洋旅行社【台湾】	14
10月16日	蛸島小学校	5
10月16日	日本商工会議所青年部	58
10月17日	輪島中学校	101
10月17日	みさき小学校	57
10月17日	日本商工会議所青年部	55
10月18日	飯田小学校	10
10月19日	三崎中学校	8
10月21日	北鉄金沢バス【あすなろツアー】	22

10月21日	クラブツーリズム【C2565-M45】	16
10月22日	クラブツーリズム【B3118-P55】	11
10月22日	野田町公民館	29
10月23日	若山小学校	22
10月23日	ほっこく観光：D4AK24	42
10月23日	北陸電力株式会社	15
10月24日	三崎中学校特別支援学級	1
10月24日	金沢経済同友会	13
10月24日	JTB 旅物語	23
10月25日	正院小学校	6
10月27日	蛸島小学校	19
10月27日	曹洞宗石川県宗務所婦人会	25
10月28日	アドバンス北陸サービス	35
10月29日	トラベル愛ランド【和倉発着アートバス】	12
10月29日	テレビ金沢ツアー	30
10月30日	正院小学校	11
10月31日	穴水町身体障害者福祉協議会	12
10月31日	米沢電気グループ	23
10月31日	ほっこく観光：D4AK24	42
10月31日	ICC トヤマ	7
11月1日	宝立小中学校	3
11月1日	北國支店長会	6
11月1日	七尾商工会議所	24
11月2日	公益社団法人金沢法人会	43
11月4日	トラベル愛ランド【和倉発着アートバス】	
11月4日	金沢学院大学芸術学部	41
11月5日	金沢学院大学芸術学部	41
11月5日	内灘町文化スポーツ課	31
11月5日	北鉄金沢バス【あすなろツアー】	24
11月5日	北安江本丁町会	28
11月6日	正院小学校	3
11月6日	蛸島小学校	6
11月7日	森本公民館	40
11月7日	正院小学校	11
11月7日	JTB 旅物語	24

11 月 8 日	三崎中学校	9
11 月 8 日	大手門健康クラブ	60
11 月 8 日	能美市商工会九谷部会	16
11 月 10 日	上戸小学校	4
11 月 10 日	緑丘中学校	44
11 月 10 日	正院小学校	8
11 月 10 日	金沢学院大学文学部	90
11 月 11 日	北日本観光旅行【トラベル you】	19
11 月 11 日	内川公民館	27
11 月 11 日	北親泉会	20
11 月 11 日	農業遺産シンポジウムエクスカーショ	30
11 月 11 日	金沢学院大学芸術学部	45
11 月 12 日	ほっこく観光：D4AK24	42
11 月 12 日	金沢学院大学芸術学部	45
	合計 86 団体	2,210

※人数の空欄は調査なし。

2-(4)-④ 広報・宣伝の取り組みについて

北川プラム総合ディレクターを中心として取り組み方針の検討が進められた。前回に引き続き、コミュニケーションディレクターに広告プランナーの福田敏也氏を招聘し、WEBデザイン、広告も含めた広報チームを編成し、戦略的な広報・PRを担うこととなった。

東京を始めとする大都市圏には、WEB媒体を中心とした広報・宣伝を中心に展開。県内では、地元マスメディアにも協力を得て広報を展開。市内では、市の広報担当者、能越ケーブルネット、地元新聞社の取材により、広く周知された。

2-(4)-④ i 広報印刷物

市内はもとより、金沢 21 世紀美術館などをはじめ、全国の美術館を中心に配布を行った。カフェや県内道の駅へ興味を持つ来場者が多い施設にも協力をいただいた。デザインは全てクリエイティブディレクターの浅葉克己氏に依頼し、告知から会期に至るまで統一したビジュアルで展開している。ポスターについては、地震の影響により会期が変更となるなど順次対応した。

種類	仕上がり	仕様	部数	備考
告知パンフ	A4	両面/A4/2 っ折	5,000 部	2023.3 月発行
会期用ポスター	B2	片面	1,500 部	〃 4 月発行
会期用ポスター(追加)	B2	片面	1,600 部	〃 6 月発行
開催パンフ	A4	両面/A3/2 っ折	70,000 部	〃 7 月発行



▲2023(会期用ポスター)



▲告知パンフレット



▲開催パンフレット

2-(4)-④ ii その他印刷物（のぼり旗/ラッピングバス/ウェルカムボード）

芸術祭をPRするため、市内全域を運行し多くの市民や観光客が利用する、「すずバス」のマイクロバス（5台のうち3台）に、車体広告の掲載を実施した。（3.00m×0.70m）

また、能登空港には、首都圏からの観光客をターゲットに、ターミナルビル玄関口に、開催看板を設置した。（4.80m×0.90m）

のぼり旗（1.80m×0.60m）については、市内の玄関口である真浦、バスの結節点でもある市内道の駅、インフォメーションとなるラポルトすずなど、各拠点を中心に重点的に配置した。



▲ラッピング広告



▲ウェルカムボード



▲のぼり旗

2-(4)-④ iii 公式ウェブサイトの展開

公式ウェブサイトは、コミュニケーションディレクターの福田敏也氏を中心に、各種SNSとも連動し、幅広い年齢層への拡散を図ると同時に、読み物として珠洲の魅力を伝える役割を担った。

ウェブサイトには、作家や作品、地図といった情報だけでなく、イベント情報など必要な情報をリアルタイムに発信することを念頭に展開した。

公式SNSアカウントと連動し、ハッシュタグを拾ってトップページに反映させるほか、会期中では情報をリアルタイムで更新した。

■公式ウェブサイト（2023年4/1～12/31）

アクセスユーザー数	188,607人
ページビュー数	1,405,103回

NEWSの更新	27回
作家視察・制作レポート	12回
ディレクターズコラムの更新	22回

2-(4)-④iv 公式SNSの運用

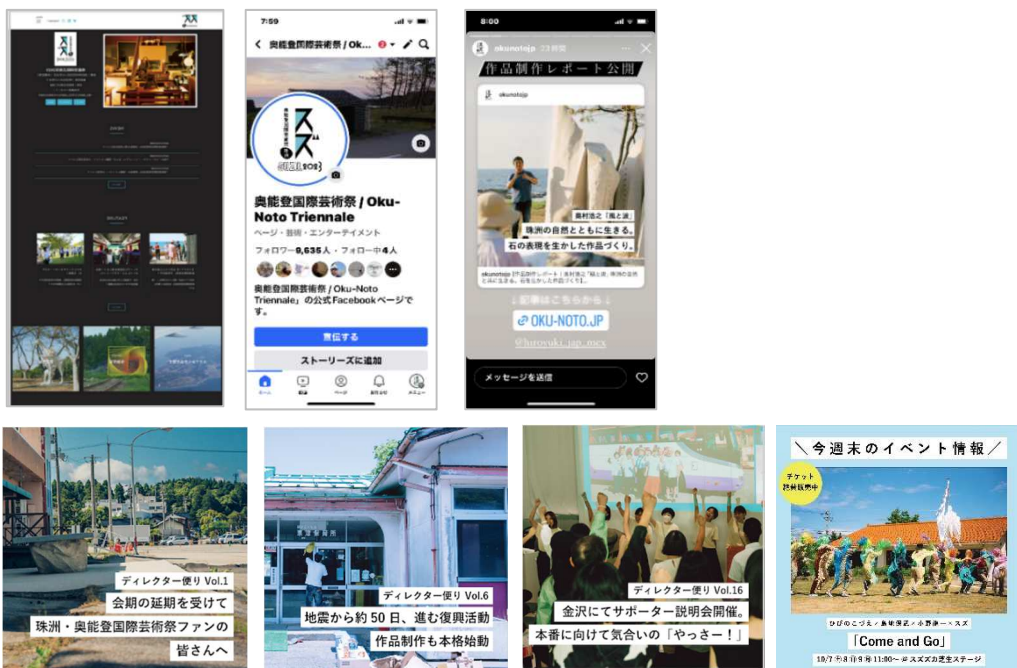
X（旧Twitter）、Instagram、Facebookの3媒体を公式SNSとして運用。

SNSの更新頻度を重視し、会期前は作家紹介や作品の制作状況等、会期中はパフォーマンスの様子や重要情報をリアルタイムで発信し、現場の盛り上がりを伝えられるような運用を行った。

■各フォロワー数(2024年3月末現在)

X（旧Twitter）	3,785人
Instagram	10,102人
Facebook	9,669人

X（旧Twitter）の更新	277回
Instagramの更新	186回
Facebookの更新	135回



2-(4)-④v 各種掲載・報道など（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等）

地元紙をはじめ、県内・首都圏のメディアへプレスリリースを行った。記事として取り上げられ放送・掲載されるなど広域的な発信につながった。特に、テレビの放送に関しては、美術番組での特集もあり、全国のアートファンへの訴求に効果があった。

■メディア掲載件数

(単位:件)

ジャンル	2022 年度	2023 年度	計
新聞	97	231	328
雑誌	20	165	185
テレビ	14	39	53
ラジオ	5	9	14
インターネット	27	41	68
計	163	485	648

※事務局へ素材提供、取材等依頼のあったもの。

2-(4)-④vi 特別協力と有料広告

北國新聞社の特別協力のもと、会期前後も含め、数多くの記事が掲載された。こうした協力が県内を中心とした周知・PRに大きな役割を果たしたものと考えられる。

また、こうした取材記事のほか、実行委員会により会期中を中心に合計 11 回にわたり、北國新聞朝刊に有料広告を掲載した。

■有料広告件数

(単位:件)

ジャンル	2022 年度	2023 年度	計
新聞	6	11	17
雑誌	3	11	14
WEB	-	2	2
計	9	24	33

2-(4)-④vii 広報すず

毎月、市内全戸に配布される広報すずに「芸術祭新聞」と題し連載ページを設け、芸術祭に関連した活動内容など情報を発信した。

2-(4)-④viii 能越ケーブルネット

行政ニュースを通して、芸術祭の活動をタイムリーに情報を発信するほか、会期直前には作家や作品場所など情報発信。また、特集の編成によって、幅広い年齢層にもわかりやすく情報提供をした。

2-(4)-④ix シンポジウムほか、関連イベント

<企画発表>

■「奥能登国際芸術祭 2023」企画発表会 ※オンライン同時配信

開催日：2023 年 6 月 10 日（土）

会 場：珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部：企画発表/北川フラム総合ディレクター

第二部：震災復興キャッチフレーズ&ロゴデザイン発表



（震災復興キャッチフレーズ/ロゴマーク）



5 月 5 日の地震からの復興に向け、珠洲市で統一したキャッチフレーズとロゴを作成し、企画発表会と合わせて披露した。考案したのは、金沢美術工芸大学製品デザイン研究生 坂東凜汰朗氏（珠洲市出身）。

文字のフォントは、珠洲市民の思いが届くよう角のある力強いものを使用。色合いは、海、山、風、希望を 4 色で表現。外側の円は、人と人、人と自然の繋がり。一つの輪となり共に生きることを表現。

■「奥能登国際芸術祭 2023」プレイベント

開催日：2023 年 7 月 25 日（火）

会 場：北國新聞赤羽ホール（金沢市）

第一部：企画発表/北川フラム総合ディレクター

第二部：アーティストトーク/常盤貴子氏×阿部海太郎氏

ピアノ演奏/阿部海太郎氏

※潮騒レストランオリジナルドリンク提供（ぶどうの木監修）

※パスポート及びガイドブック販売開始



<開幕式/閉幕式>

■「奥能登国際芸術祭 2023」開幕式

開催日：2023 年 9 月 23 日（土）

会 場：珠洲市多目的ホール ラポルトすず



■「奥能登国際芸術祭 2023」閉幕式

開催日：2023 年 11 月 12 日（日）

会 場：珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部：事業報告

第二部：交流会



<関連イベント>

奥能登国際芸術祭 2023 開催に向け、市民の機運を高めることや芸術祭の広報・宣伝を目的に常設作品や施設を活用したイベントを開催。

■ART Oku-Noto 2022 秋の開催

開催日：2022 年 9 月 17 日（土）～19 日（月・祝）の 3 日間

会 場：常設作品 18 作品を公開（屋内作品 9 会場）

料 金：各屋内作品

〔一般〕300 円/〔小中高生〕200 円

スズ・シアター・ミュージアム

〔一般〕800 円/〔大学生〕600 円/〔小中高生〕400 円

パスポート〔一般〕2,500 円/〔小中高生〕1,500 円

来場者：736 人（実数）

■作品会場別鑑賞者

(単位：のべ人)

屋内作品	9/17 (土)	9/18 (日)	9/19 (月・祝)	合計
塩田千春	112	206	87	405
スズ・シアター・ミュージアム	115	198	63	376
さわひらき	76	112	36	224
カールステン・ニコライ	77	104	44	225
山本基	85	134	67	286
ひびのこづえ	85	137	39	261
中島伽耶子	78	150	46	274
スズプロ	88	121	40	249
河口龍夫	59	83	25	167
合計	775	1,245	447	2,467



■すずA I 乗り合いタクシー

運行期間：2022年9月17日（土）～19日（月・祝）の3日間

運行エリア：市内全域（常設作品会場他）

利用料金：1,000円／日

利用者数：15人



※ART Oku-Noto 2022 秋期間と合せて運行。

※スマホ等による予約制で会場から会場までを送迎。(何回でも利用可能)

<スズズカイベント>

■ひびのこづえ×スズズカ 2022

開催日：2022年11月5日(土)、6日(日)の2日間

会 場：スズズカ(旧飯塚保育所)

(参加者)

芝生プロジェクト：スズズカのグラウンドに芝生を植栽(94人)

パフォーマンス：ROOT：根×アオイヤマダ×小野龍一(141人)

ダンスワークショップ：アオイヤマダさんによるWS(42人)



<スズ・シアター・ミュージアム>

■GW特別公開

開催日：2022年5月3日(火・祝)～5日(木・祝)の3日間

来場者：605人



■お盆特別公開「ナイト・ミュージアム」

開催日：2022年8月11日（木・祝）～14日（日）の4日間

来場者：203人



■さいはての朗読劇「珠洲の夜の夢」

開催日：2022年10月21日（金）～23日（日）の3日間 5公演

来場者：303人



■定期開館

開催日：2022年10月～11月の土・日に限定し開館（17日間）

来場者：156人

<その他関連イベント>

石川県全域で、いしかわ百万石文化祭 2023（第 38 回国民文化祭、第 23 回全国障害者芸術・文化祭）が開催された。珠洲市においては、芸術祭の会期中とも重なり、たくさんの来場者で賑わった。事業内容は次のとおり。

（概要）

会期：2023 年 10 月 14 日～11 月 26 日 44 日間

会場：石川県内全 19 市町



■珠洲焼×【食・酒・文化】、珠洲焼まつり

開催日：2023 年 10 月 14 日（土）、15 日（日）

会 場：珠洲市多目的ホール ラポルトすず

来場者：約 2,450 人

プログラム

「珠洲焼×食」常盤貴子氏、舟見有加氏（ギャラリー経営）のトークショー

「珠洲焼×酒」森由美氏（陶磁研究家）、篠原敬氏（珠洲焼作家）、

櫻田博克氏（櫻田酒造杜氏）のトークショー

「珠洲焼×文化」上野雄次氏（華道家）によるパフォーマンス

「珠洲焼まつり」珠洲焼作家による直売会など



■寿受狂言の会

開催日：2023 年 10 月 20 日（金）

会 場：珠洲市多目的ホール ラポルトすず

来場者：483 人

出演者：三宅藤九郎氏、和泉元彌氏、和泉淳子氏ほか

プログラム：狂言「珠洲宮筋」、狂言「あえの風」ほか



3 その他

3-(1) 誘客促進の取組みについて

3-(1)-① ツアー造成

市内誘客の促進を目的に、市観光交流課、NPO法人能登すずなり等各関係機関と連携し旅行会社を中心とした営業活動を行うほか、旅行会社が開発した常設作品を巡るバスツアーの受け入れを行った。

また、インバウンド対策として、台湾の旅行社をはじめとしたトップセールスや、旅行社の担当を珠洲へ招待するなど新たな取組も行った。

■活動実績

	活動内容
2022 年度	◆ツアー商品等の開発 ・4/19 いしかわ旅行商品プロモーション会議 ・5/12 ANA 視察対応 ・7/20 阪急交通社（本社）視察 ・9/27 阪急交通社（中部）視察 ・10/19 いしかわ旅行商品プロモーション会議視察) ・11/29 イギリスメディア取材（スズプロ他） ・12/1 阪急交通社（仙台、高松）視察（山本基、スズプロ） ・2/22 石川県ファムトリップツアー視察（スズプロ他） ※この他、NPO 法人能登すずなり、珠洲市観光交流課が PR を実施
2023 年度	◆旅行会社等への PR 活動の実施 台湾での PR 活動（旅奇廣告有限公司へ業務委託） ・4/13～14 台湾旅行社等 11 社を訪問 芸術祭の他、市内の宿泊施設、飲食店情報等を PR ・7/20～22 台湾旅行社等から 12 名を招待しファムトリップを実施 （常設作品のほか、宿泊施設、飲食店の視察、祭り見学、ヨバレ体験など誘客に向けた意見交換会を実施） ・7/31 台湾で「奥能登国際芸術祭 2023」PR イベントを開催 （台湾のインフルエンサー等 53 名参加） 【実績・効果】 ・台湾旅行社及びインフルエンサーツアーでの芸術祭来場者 320 名 ・台湾メディア及びインフルエンサー等の情報発信 29 本 ⇒ 広告費換算 3,380,000 円



3-(1)-② ツアーの受け入れ

旅行会社が開発した常設作品を巡る作品鑑賞バスツアーを受け入れた。

■作品鑑賞ツアー受入件数

(単位：件/人)

		2022 年度	2023 年度	計
旧清水保育所 (塩田千春)	受入本数	16	11	27
	来場者数	167	252	419
八木邸 (スズプロ)	受入本数	161	1	162
	来場者数	4,645	44	4,689
旧蛸島駅 (トビ・アス・レーベル・カッター)	受入本数	45	53	98
	来場者数	1,162	1,613	2,775
旧飯塚保育所 (ひびのこづえ)	受入本数	1	1	2
	来場者数	8	42	50
珠洲焼資料館 (リュウ・ジャンファ)	受入本数		1	1
	来場者数		57	57
旧飯田駅 (河口龍夫)	受入本数		3	3
	来場者数		64	64
スズ・シアター・ミュージアム (南条嘉毅ほか)	受入本数	36	14	50
	来場者数	562	219	781
旧小泊保育所 (山本基)	受入本数	105	95	200
	来場者数	2,924	2,841	5,765
旧正院駅 (大岩オスカル)	受入本数		2	2
	来場者数		51	51
飯塚旧事務所 (中島伽耶子)	受入本数	3		3
	来場者数	45		45
旧栗津保育所 (カールステン・ニコライ)	受入本数		2	2
	来場者数		45	45
木ノ浦海岸 (リチャード・テイ・コン)	受入本数		2	2
	来場者数		76	76
鉢ヶ崎海岸 (ラグジュアリー・ロジコ)	受入本数		2	2
	来場者数		33	33
鰐崎海岸 (奥村浩之)	受入本数		2	2
	来場者数		76	76
旧タキシ-営業所 (栗田宏一)	受入本数		1	1
	来場者数		42	42
旧上黒丸小中 (鈴木泰人ほか)	受入本数		1	1
	来場者数		42	42
合計	受入本数	367	191	558
	来場者数	9,513	5,497	15,010

3-(2) さいはてのキャバレー貸館事業

芸術祭主催イベントのほか、誰でも利用できる貸館として多くの方が利用されてきたが、令和5年奥能登地震の影響により、建物の周辺地盤が沈下したため、貸館事業を中止した。(11月末から再開)

また、令和6年能登半島地震により、津波の影響を受け機材等が流されるなど壊滅的な被害を受けた。

■利用実績

	利用日数		計
	営利	非営利	
2022 年度	3 日	32 日	35 日
2023 年度	0 日	2 日	2 日



3-(3) スズ・シアター・ミュージアム等の取組みについて

「奥能登国際芸術祭 2020+」の開幕に合わせてオープンした、スズ・シアター・ミュージアム。地域が抱える民具の収集・保存・調査の新しい取組として、国立歴史博物館の協力のもと、「珠洲の大蔵ざらえプロジェクト」と題して市内約 70 軒から 1,500 点以上の民具を収集した。集められた民具は、8 組のアーティストが作品へと昇華させ展示した。現代美術作家のアート作品を展示する美術館と博物館・資料館と融合し、これまでにないかたちのミュージアムとして誕生した。

この動きから、ミュージアムを拠点とした、観光誘客の促進を図るため、ミュージアムの隣に、食の拠点として「潮騒レストラン」の整備や、これまで進めてきた「大蔵ざらえプロジェクト」により、収集した民具を保存・調査する拠点として、旧大谷保育所を改修し「スズ・シアター・ミュージアム分館」の整備につながった。



<これまでの取組>

■組織体制づくり

スズ・シアター・ミュージアム館長に北川フラム総合ディレクターが就き、地元大谷地区の協力団体をはじめ、一般社団法人サポートスズとも連携を図り、ミュージアムの組織体制を整えながら運営管理を行った。

また、ミュージアム及び潮騒レストランについては、2023 年度からサポートスズが指定管理者制度により施設の運営管理を行っている。

(総合企画委員会)

行政を中心に、実行委員会、サポートスズ、地元と連携を図りながら、全般的な運営方針の決定とイベントなど企画提案の検討を行った。

また、アドバイザーとして、ミュージアムのキュレーターを務める南条嘉毅氏や歴史民俗博物館川村清志准教授も参加した。

(運営委員会)

スズ・シアター・ミュージアムの運営や管理など、サポートスズを中心に地元協力団体と連携しながら、館内のメンテナンスをはじめ、開館時の受付、来場者の安全管理など施設運営を行っている。

■潮騒レストランの整備

潮騒レストランの設計を、坂 茂氏（株式会社坂茂建築設計）が担い整備を進める。
レストランのメニューは、金沢市を中心にレストランを展開している、「ぶどうの木」
総料理長 米田岳人氏が監修し珠洲らしいメニューを提案いただいた。

2023 年 3 月 11 日 起工式

4 月 20 日 メニュー試食会/さいはてのキャバレー

9 月 16 日 プレオープン

9 月 22 日 オープン（完成式）



■デザイン制作

これまで、ミュージアムのサイン、グッズの制作を KIGI へ依頼した経緯から、潮騒レストランのロゴ、サイン等についても、ミュージアムとの統一感を図るため、KIGI へデザインを依頼した。

- ・「潮騒レストラン」ロゴマーク
- ・「スズ・シアター・ミュージアム分館」ロゴ
- ・屋外サイン
- ・屋内サイン（トイレ・インフォメーション）
- ・箸袋、コースター、エプロンなど



■公式WEBサイトの開設

<https://www.suzu-stm.jp/index.html>

※地震の影響により現在休止中。

■主な受賞展

スズ・シアター・ミュージアム

- ・日本空間デザイン賞 2022「博物館・文化空間部門」銀賞
- ・令和4年度 第35回いしかわ広告景観賞「公共部門」石川県知事賞



■イベント/ワークショップの開催（再掲）

（2022 年）

	開催日	来場者数
GW特別公開	5/3～5（3日間）	605人
お盆特別公開 「ナイトミュージアム」	8/11～14（3日間）	203人
ART Oku-Noto2022 秋	9/17～19（3日間）	379人
定期開館	10月～11月の土・日（17日間）	156人
さいはての朗読劇 「珠洲の夜の夢」	10/21～23（3日間5公演）	303人
大蔵ざらえ「民具整理・分類WS」	1/23～3/29（5回）@分館ほか	地元有志

（2023 年）

	開催日	来場者数
田中泯「場踊り一歩む」	9/22～24（3日間3公演）会期	211人
さいはての朗読劇 「うつつ・ふる・ずず」	9/29～30（2日間3公演）会期	203人
大崎清夏「＜いまばなし＞の贈り物」WS	10/1 会期@分館	20人

■ツアー・視察の受入数（ミュージアム/分館）

	受入数	備考
2022 年度	502 人	
2023 年度	83 人	会期中（18,179 人）計 18,262 人
計	585 人	

※2022 年 12 月～2023 年 3 月末まで休館

※2023 年度の数字は会期外

4 開催効果にかかる検証

4-(1) 効果把握の視点

奥能登国際芸術祭(以下、「芸術祭」と表記)の開催効果に関し、芸術祭の開催目的を鑑み以下の視点で整理を行う。

芸術祭の開催目的

- ① 珠洲の魅力(伝統、文化、自然、食等)を広く伝える
 - ② 市民が珠洲の潜在力を再認識し自信と誇りを持つ
 - ③ 全国から集まった鑑賞者、サポーター、市民が交流し新たなつながりが生まれる
- ⇒それにより、珠洲の魅力を高め、若い人を惹きつけ、UIターン、移住・定住につなげる

開催効果の整理

- 効果1 魅力の再発見、広域発信に関する効果
- 効果2 交流の促進、新たな人のつながりに関する効果
- 効果3 交流人口の増加
- 効果4 交流人口増加に伴う経済効果

4-(2) 開催効果の整理と分析

効果1 魅力の再発見、広域発信に関する効果

① 市外から多くの人が訪れ、芸術祭を楽しんだ

約 51,000 人の鑑賞者が芸術祭に訪れたが、うち 39.4%は石川県外から、50.3%は珠洲市以外の県内から訪れている。

芸術祭鑑賞者に対するアンケートでは、27.2%が珠洲市を初めて訪れており、県外居住者に着目すると 55.7%が珠洲市を初めて訪れている。

珠洲らしい食を楽しむ機会があった人は 73.0%であり、珠洲らしい食を楽しむために、また珠洲を訪れたいと感じた人は 96.7%である。

98.9%が芸術祭を楽しかったと感じ、ほぼ全員が「また珠洲市を訪れたい」と回答している。

芸術祭は、これまで珠洲市に対し関心の低かった人が珠洲市を訪れるきっかけになっているとともに、芸術祭を通じて珠洲市で楽しく過ごした経験から、再訪意向につながっている。

② 多くのメディアに取り上げられ認知度が向上

2023 年度において、マスコミ等(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 媒体)の放送・掲載記事は 485 件である。新聞の全国紙や雑誌にも掲載され、全国的な認知度向上につながったと考えられる。

市民の芸術祭の評価に関して「テレビや新聞に取り上げられる」(65.2%)、「珠洲の魅力が外に発信される」(54.6%)を挙げる声が大きく、魅力発信の効果を実感した市民が多い。

③ 鑑賞者は芸術作品を通じて珠洲の特徴を理解、市民は珠洲市の良さを再発見

ほぼ全ての鑑賞者が、芸術作品が珠洲の地域特性が記憶に残るためのきっかけになったと考えている。記憶に残ったことは、自然景観（海や山）を挙げる人が多く、珠洲の人々、食事・食べ物が続く。鑑賞者の半数は、芸術祭以外の観光拠点も訪れている。

また、市民の 26.6%が珠洲の良さを再認識、再発見できたと感じており、29.6%が珠洲への自信や誇りが高まったと感じている。芸術祭を鑑賞することによる地域の魅力への気づきや、来訪者との交流、メディアに取り上げられたことによる魅力の再認識があったと思われる。

効果 2 交流の促進、新たな人のつながりに関する効果

① 全国から集まった鑑賞者、サポーター、市民が交流

芸術祭開催を通じて、1,235 人の市民ボランティア、502 人の市外からのサポーターが参加したことにより、ボランティアスタッフ同士の交流が生まれた。

市民の半数は芸術祭を鑑賞しており参加率が高い。鑑賞者のうち、芸術祭スタッフとコミュニケーションのあった人は 89.7%であり、鑑賞者、サポーター（スタッフ）、市民の交流機会が多く生まれたと考えられる。

② 新たな人と人のつながりが創出された

芸術祭を通じて新しい知り合いが生まれた市民は 14.1%（第 2 回芸術祭は 17.9%）であり、知り合いになった相手は、市民が 61.1%、ボランティアが 30.0%、観光客が 20.0%、アーティストが 23.3%である。通常の市民生活では生まれにくい人と人のつながりが創出されているといえる。

③ 市外の人が珠洲市に興味を持つきっかけとなった

芸術祭の開催により、珠洲市の観光客が継続的に増えたと思う市民は 48.3%、珠洲市に関心のある人や定期的に訪れる人が増えたと思う市民は 45.3%、珠洲市の PR 効果が継続的にあったと思う市民は 64.2%であり、芸術祭の開催が交流人口や関係人口創出に継続的な効果を生んでいると感じている市民の割合が高い。

また、これまで芸術祭を鑑賞した人のうち、鑑賞後に珠洲市への関心が高まった人は 95.3%、珠洲市を訪れる機会が増えた人（珠洲市民以外）が 65.6%、珠洲市に知り合いが増えた人は 48.0%であり、交流人口や関係人口創出につながっている。

効果3 交流人口の増加

① 芸術祭開催により観光入込客が増加

芸術祭会期中(9/23～11/12)の市内観光拠点における入込客数は216,000人であり、コロナ禍前(2019年)の9～10月と比較し、19,000人増加(110%)しており、コロナ禍前の水準を上回る誘客効果が生まれている。

市内の宿泊者数(9～10月)は16,000人であり、コロナ禍前と比べ2,900人増加(123%)している。

② 道の駅の入込客、売上が増加

道の駅(市内3施設)における芸術祭会期中(9～10月)の変化をみると、入込客数は44,000人であり、コロナ禍前(2019年)同月比で15,000人の減少(75%)であるが、売上は5,900万円であり、2019年同月比で1,900万円の増加(147%)である。

特に道の駅すずなりはコロナ禍前と比べても入込、売上ともに大きく増加している。

効果4 交流人口増加に伴う経済効果

① 経済波及効果は5億8,000万円

作品来場者数51,136人を基に、消費を伴わない高校生以下の人数を除き、一人あたりの消費額を乗じることで直接効果(消費額)を算出している。

直接効果は4億6,100万円であり、波及効果に関しては県内事例等を参考に直接効果の0.25倍と仮定し1億1,500万円と推計している。直接効果と間接効果を合わせた経済波及効果は5億7千6百万円である。

② 市内経済への効果もみられる

芸術祭事業費における市内業者への発注額は約7,000万円である。仕事で芸術祭に携わった市民は5.3%であり、市民の約15%は経済効果を実感している等、市内経済活性化効果もみられる。

③ 会期外も含めた経済波及効果は6億6,000万円

芸術祭会期以外の経済波及効果は7,900万円。芸術祭開催期間と合計した2023年度の芸術祭に関する経済波及効果は6億6,000万円となる。

4-(3) これまでの経済効果・波及効果のまとめ

これまでの市内経済効果を算出。前回芸術祭（2021 年度）と比較すると、市内経済効果では 1.5 億円、県内波及効果で 3.56 億円の増額となっている。

■年度別の推移

年度	市内経済効果	県内波及効果
2017 年度	5.23 億円	9.00 億円
2018 年度	0.94 億円	—
2019 年度	0.27 億円	—
2020 年度	0.15 億円	—
2021 年度	4.26 億円	8.06 億円
2022 年度	1.34 億円	—
2023 年度	5.76 億円	11.62 億円
合計	17.95 億円	28.68 億円

※県内波及効果は開催年（2017、2021、2023 年度）のみ算出

4-(4) 移住者の推移（移住相談窓口で把握分）

過去 10 年間を含めた移住者の推移を見ると、芸術祭開催前（2012～2016 年度）と芸術祭開催後（2017～2021 年度）それぞれ 5 年間の累計を比較すると、約 2.0 倍の増となっている。

2 回目の開催となった 2021 年度以降も増加傾向ではあるものの、震災後どのように影響するか動向を注視していく必要がある。

■年度別推移

開催前	移住者	開催後	移住者	開催後	移住者
2012 年度	18 人	2017 年度	42 人	2022 年度	79 人
2013 年度	20 人	2018 年度	48 人	2023 年度	37 人
2014 年度	26 人	2019 年度	42 人		
2015 年度	41 人	2020 年度	51 人		
2016 年度	30 人	2021 年度	86 人		
計	135 人	計	269 人	計	116 人

※12 年間の合計 520 人（平均 43 人/年度）

●総 括

2023 年 5 月 5 日に発生した奥能登地震の影響により、常設作品はもとより新規展開場所については場所を変更せざるを得ない状況となり、プランの見直しや工事など短い準備期間での対応を迫られた。

芸術祭の開催目的である、①珠洲の魅力を広く伝える、②市民が珠洲の潜在力を再認識し自信と誇りを持つ、③全国から集まった来場者、サポーター、市民が交流し新たなつながりが生まれるに関しては、市内の交流活動をはじめとした取組の効果は大きいと考えられる。

前回の芸術祭での主な課題とし、①交通アクセス、②食の提供、③宿泊施設、3つがあげられる。前回と比較して、特に、②食の提供に関しては、食事する場所が少ないことから、旧上戸保育所を活用して能登井組合が弁当を販売するなど新たな取組も行った。また、食プロジェクトとして、各作品会場で弁当を販売するなど今後の展開にも期待したい。また、③宿泊施設では、前回から民間でゲストハウス等を開設するなど増えてきた一方、5月5日の奥能登地震により営業ができなくなった施設もあった。

交通アクセスといった点では、特に、駐車場不足の解消などの対策は引き続き考える必要がある。

	課題に対する取組内容
①交通	(継)「お宿送迎バス」の運行 (継) 特急バスを増設 (臨時便) (継)「すずアートバス」の運行 (継) 駐車場対策/交通誘導 (継) レンタサイクル (民間へ移行)
②食の提供	(新)「スズ定食」の提供 (新) 能登井組合による弁当の提供 (旧上戸保育所) (継) 市内お食事処 MAP (珠洲商工会議所) (継)「まつり御膳」の提供 など
③宿泊施設	(継) ゲストハウスの開設 (民間)

※ (新) : 2023 新たな取組 (継) 前回芸術祭から継続した取組

アンケート結果から、芸術祭の継続開催に関しては、「開催した方がよい」と答えた方が 38.8%、「開催しない方がよい」が 14.4%、「どちらともいえない」が 46.8%という結果であった。この数字は、令和 6 年能登半島地震前の算出である。震災による市内の被害が甚大であることから、復旧を最優先とし、次回芸術祭については開催時期も含め

検討していく必要がある。

また、開催前の説明が不十分だったと感じる市民は前回と同様、半数を超えており、開催に向けては、芸術祭の趣旨について理解をいただけるよう地元の方たちへ丁寧な説明を実施していく必要がある。

また、期間中の感想として交通の状況に対する不満が多く、交通関係については、駐車場の整備等を含めた対策を引き続き実施する必要がある。

経済効果として一定の効果はみられるものの、芸術祭を訪れ宿泊した人のうち珠洲市で宿泊した人は約 6 割である。今回の調査では宿泊客の方が消費額が大きいことが解っている。震災により、営業が困難となった事業者も多いことから、次回開催にあたっては、宿泊施設の整備等も課題となる。

また、移住・定住者の推移から、過去 10 年間を含めた推移を見ると、第 1 回芸術祭開催後の 5 年間(2017～2021 年度)では、269 人の方が移住しており、開催前の 5 年間(2012～2016 年度)と比較すると約 2.0 倍の移住者が増えた。

2023 年度の集計では、移住者は 5 月の地震により移住者は減少しているが、過去のデータからは芸術祭を通じて、珠洲の魅力を発信できていることが伺える。今後は、復旧復興をベースにアートや先駆的な技術をとりいれた新たな珠洲の魅力発信についても考えていく必要がある。

芸術祭は芸術鑑賞という直接の効果や観光客(鑑賞者)に対する芸術サービスの提供だけではなく、芸術祭以外の場である店舗やボランティア活動を通して、市民、開催関係者、来場者の交流を創出している。また市民同士が交流する機会が創られており、地域内の交流や関係性の再構築にも繋がっていると考えられる。

こうした反面、芸術祭の説明が不足していることが指摘されるなど、「開催期間中以外での活動」が見えにくいと考えられる。芸術祭そのもののイメージはあるものの、具体的にどのような活動内容なのかしっかりと情報を発信していくことが求められる。

また、過去 3 度開催した芸術祭が、新たなつながりも生まれている。1 月 1 日の発災以降、芸術祭の来場者が珠洲に心を寄せ、支援をしてくださっている。こうした支援から新たな取り組みに発展する可能性もあり、震災からの復興にアートをどのように取り入れ、次の世代につなげていくのが今後考えていくべき課題となる。

以上、芸術祭で高まった珠洲の人と人とのつながりを活かし、総合的な政策として継続的に取り組むことにより、長期的な目標である「珠洲の魅力を高め、若い人を惹きつけ、移住・定住につなげる」ことが実現され则认为られる。

5 常設作品及び今後の事業展開等について

令和5年奥能登地震の影響により、これまでスズプロが作品展開してきた八木邸の蔵が崩壊したため、やむなく閉鎖となった。このため、奥能登国際芸術祭の常設作品としては、2023 会期後8組9作品を新たに追加し、全体で30組26作品となった。(2020+/浅葉克己氏「石の卓球台第3号」については、地震の影響により作品場所を移設)

しかしながら、1月1日の震災において、大きな損傷が見られた作品もあり、作品及びその周辺の復旧が完了次第、ツアー造成等につなげていく。特に、スズ・シアター・ミュージアム及び潮騒レストランについては、本市の大きな観光資源として位置づけられることから、市民生活の再建が進んだ段階で誘客に向けて事業を展開していきたい。

■常設作品一覧

(2017)

No.	作家名	国	作品名	場所
1	塩田千春	日本 /ドイツ	時を運ぶ船	大谷地区 (旧清水保育所)
2	さわひらき	日本 /イギリス	幻想考 “The Butterfly Dreams” ※2023 リニューアル	日置地区 (旧日置公民館)
3	リュウ・ジャンファ (劉建華)	中国	漂移する風景	蛸島地区 (珠洲焼資料館)
4	トビアス・レーベルガー	ドイツ	Something Else is Possible/ なにか他にできる	蛸島地区 (旧蛸島駅周辺)
5	ひびのこづえ	日本	スズズカ ※2023 リニューアル	正院地区 (旧飯塚保育所)
-	金沢美術工芸大学アートプロジェクト [スズプロ]	日本	奥能登曼茶羅ほか ※2020+追加	飯田地区 (旧八木邸) 地震により閉鎖
6	河口龍夫	日本	小さい忘れもの美術館	飯田地区 (旧飯田駅)
7	ラックス・メディア・コレクティブ	インド	うつしみ	上戸地区 (旧上戸駅)
8	アレクサンドル・コンスタンチーノフ	ロシア	珠洲海道五十三次	正院、珠洲川尻、能登洲崎、笹波口

8 組 11 作品

(2020+から追加)

No.	作家名	国	作品名	場所
1	南条嘉毅 ほか8名	日本	スズ・シアター・ミュージアム 「光の方舟」	大谷地区 (旧西部小学校体育館)

2	カールステン・ニコライ	ドイツ	Autonomo/図書室：カールステン・ニコライが推奨する子供の本	三崎地区 (旧粟津保育所)
3	山本 基	日本	記憶への回廊	三崎地区 (旧小泊保育所)
4	大岩オスカー	ブラジル / ア メ リ カ	植木鉢	正院地区 (旧正院駅)
5	中島伽耶子	日本	あかるい家 Bright house	正院地区 (旧飯塚の事務所)
6	浅葉克己	日本	石の卓球台第3号 ※2023 にさいはてのキャバレーからミュージアムへ移設	大谷地区

14 組 6 作品

(2023 から新規に追加)

No.	作家名	国	作品名	場所
1	—	日本	スズ・シアター・ミュージアム 分館	大谷地区 (旧大谷保育所)
2	坂 茂	日本	潮騒レストラン	大谷地区 (旧西部小学校グラウンド)
3	牛嶋 均	日本	松雲海風解雲	大谷地区 (旧西部小学校グラウンド)
4	奥村浩之	日本/ メキシコ	風と波	大谷地区 (鰐崎海岸)
5	アレクサンドル・ポノマリョフ	旧ソ連 [ドニブ ロ] / ロ シア	TENGAI	日置地区 (木ノ浦野営場)
6	リチャード・ディーコン	イギリス	Infinity 41. 42. 43	日置地区 (木ノ浦海岸)
7	ラグジュアリー・ロジコ	台湾	家のささやき	蛸島地区 (鉢ヶ崎海岸)
8	N. S. ハーシャ	インド	なぜここにいるのだろう	上戸地区 (柳田児童公園)
9	小山真徳	日本	ボトルシップ	若山地区 (北山の棚田)

8 組 9 作品

(常設作品まとめ)

	屋内作品	屋外作品	合計
2017	4 組 4 作品	4 組 7 作品	8 組 11 作品
2020+	12 組 4 作品	2 組 2 作品	14 組 6 作品
2023	1 組 2 作品	7 組 7 作品	8 組 9 作品
合計	17 組 10 作品	13 組 16 作品	30 組 26 作品

5-(1) 令和6年能登半島地震における常設作品の被害状況について

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、常設作品の被害調査を実施した。調査の結果、奥能登国際芸術祭常設作品26作品のうち、12作品については軽微な修繕、または影響がなかった作品。残る14作品については、大規模な改修、または復旧が困難と思われる作品となる。

また、実行委員会で事業展開してきた「さいはてのキャバレー」についても、津波の影響により、復旧が大変困難な状況である。

■奥能登国際芸術祭常設作品被害状況（2024年5月31日現在）

1 スズ・シアター・ミュージアム／旧西部小学校



2 坂 茂／旧西部小学校



3 浅葉克巳／旧西部小学校



4 牛島均／旧西部小学校



5 スズ・シアター・ミュージアム分館／旧大谷保育所



6 さわひらき／旧日置公民館



7 山本基／旧小泊保育所



8 ひびのこづえ／旧飯塚公民館



9 中島伽耶子／飯塚の事務所



10 小山真徳／北山の棚田



11 アレクサンドル・コンスタンチノフ／バス停



さいはてのキャバレー／旧飯田港湾センター



(参考)

令和6年能登半島地震の概要 (2024年5月28日現在気象庁情報)

[M7.6の地震に関する概要]

1月1日16:10に石川県能登地方の深さ約16kmでマグニチュードM7.6の地震が発生した。この地震により石川県輪島市や志賀町で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6強や6弱の揺れを観測し、被害を伴った。M7.6の地震の前後にも規模の大きな地震が発生し強い揺れが長く続いた。

また、石川県では長周期地震動階級4を観測した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。

①発生日時

令和6年1月1日16:10

②震源地及び規模(暫定値)

場所：石川県能登地方

規模：マグニチュード7.6(暫定値)

震源の深さ：16km(暫定値)

③県内の震度

震度7 志賀町、輪島市

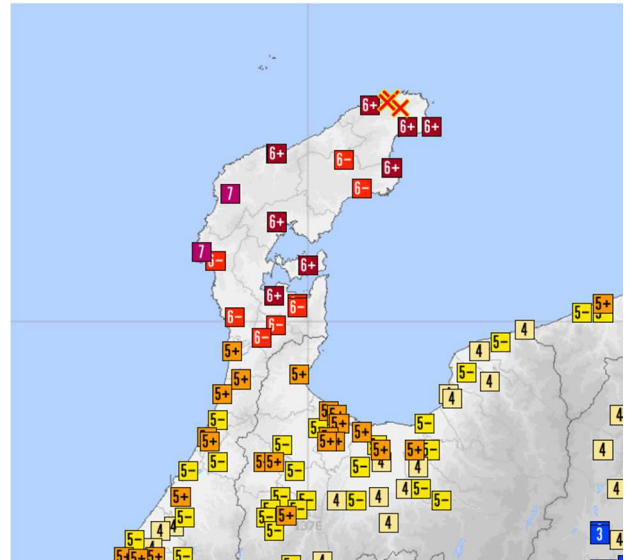
震度6強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町

震度6弱 中能登町

震度5強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、
かほく市、能美市、宝達志水町

震度5弱 白山市、津幡町、内灘町

震度4 野々市市、川北町



[M7.6の地震に伴う津波]

今回の地震により、金沢観測点(港湾局)で80cm、酒田観測点(気象庁)で0.8mなど、北海道から九州にかけての日本海沿岸を中心に津波を観測した。そのほか、空中写真や現地観測から、能登半島等の広い地域で津波による浸水が認められた。また、現地調査により、石川県能登町や珠洲市で4m以上の津波の浸水高や、新潟県上越市で5m以上の遡上高を観測した。

- ・1日16:12 津波警報 発表(石川県加賀、石川県能登)
- ・1日16:22 大津波警報に切り替え(石川県能登)
- ・1日20:30 津波警報に切り替え(石川県能登)
- ・2日1:15 津波注意報に切り替え(石川県加賀、石川県能登)
- ・2日10:00 津波注意報解除(石川県加賀、石川県能登)



■地震活動の状況（2024年5月21日現在）

2024年1月1日 16:06の最大震度5強の地震以降、震度1以上を観測した地震が1,837回（震度7：1回、震度6強：0回、震度6弱：2回、震度5強：8回、震度5弱：7回、震度4：48回、震度3：181回、震度2：459回、震度1：131回）

■人的・住家被害等の状況（2024年5月30日現在）

	珠洲市	石川県
死者	111人	260人
災害関連死	14人	30人
負傷者	249人	1,201人
重傷	47人	325人
軽傷	202人	876人
住宅被害	5,339棟	80,075棟
全壊	1,672棟	7,644棟
半壊	1,857棟	16,656棟
一部破損	1,810棟	55,775棟

参考：珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部
及び石川県災害対策本部資料より

6 次回に向けて

第3回目となった「奥能登国際芸術祭 2023」は、1年延期を余儀なくされた2020+から2年後の開催となり、準備期間が1年短縮された。そのため、開催に向けての準備をスピーディーに行う必要があった。また、5月5日には震度6強の地震が珠洲市を襲い、甚大な被害が生じた。こうした中で、市民の生活再建を前提として開催することとなった。

これまで、珠洲市の魅力を高め、さらに移住・定住につなげること、市民の皆様には、あらためて地域の良さを実感し、愛着や誇りを高め、珠洲市の未来に希望を感じる機会とする、といったことが何よりも重要であるとの基本理念のもと、芸術祭を展開してきた。

会期中は、多くの来場者を迎え、会期中の市内は賑わいと活気に溢れるとともに、その模様は連日、新聞やテレビといったマスコミに数多く取り上げられ、震災に負けない珠洲市の潜在力の高さをアートを通して広く伝えることができた。

また、スズ・シアター・ミュージアムに併設する形で「潮騒レストラン」がオープンしたほか、芸術祭の公式イベントとして、田中泯氏によるパフォーマンスや常盤貴子氏による朗読劇を開催するなど、奥能登の里山里海を活かしたアートと食、作品を取り巻くイベントやワークショップ等が組み合わさり、充実した芸術祭となった。

鑑賞者については、インバウンド事業等により、台湾旅行社や台湾のインフルエンサーとの新たなつながりも生まれ、県外のみならず、海外からも鑑賞者が訪れた。

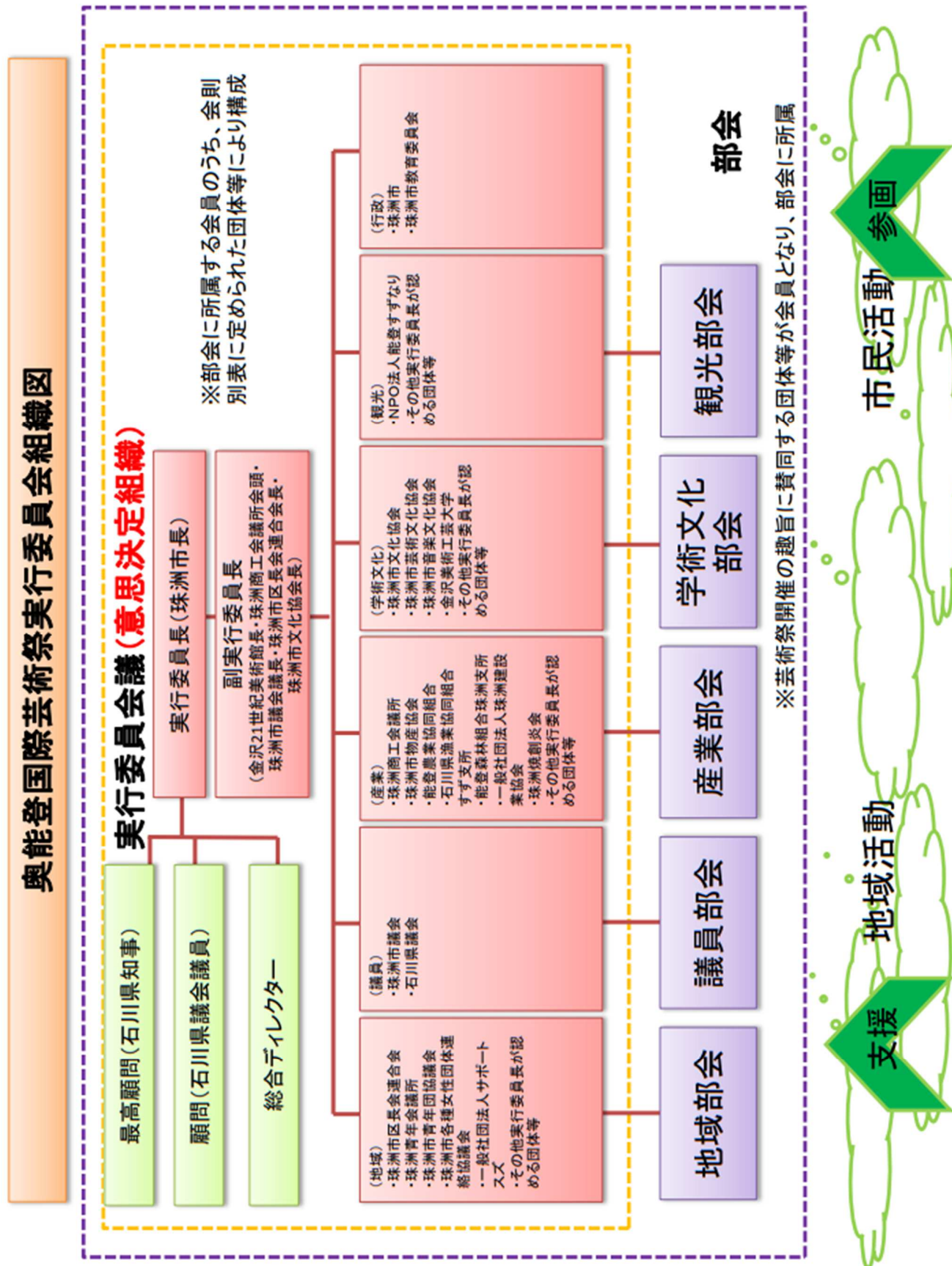
準備期間や会期中は、サポートスズをはじめ、地域住民、企業サポーター、市職員などの協力によって「市民参加型の芸術祭」を開催することができ、芸術祭自体のイメージは市民へも浸透してきたが、住民への説明や参加といった面では課題が残されている。より多くの市民が参画し、市外からのサポーターとの協働により取り組んでいく体制を構築していかなければならない。

また、これまでの芸術祭でも指摘があった、交通アクセスや食事提供、宿泊などの面をはじめとした受け入れ態勢については、今後の課題として残るものであり、珠洲市の復旧・復興と合わせて今後の方針について検討を進めていく必要がある。

1月1日には令和6年能登半島地震が珠洲市を襲い、市内全域で甚大な被害が生じた。常設作品にも被害があり、作品の半数は修繕等が必要な状況である。この震災を自分事としてとらえていただき心を寄せていただいている方が多い。そこには、芸術祭で生まれた新たなつながりもあり、多方面で様々な形でのご支援ご協力をいただき、この場を借りて感謝申し上げる。

過去3回、コロナ禍や令和5年奥能登地震からの「復興の光」として開催してきた経験をもとに、今後、本市の復旧・復興について、里山里海の営み、アートや先駆的な技術を取り入れながら次世代へつなげる復興についてどのように取り組んでいくのかを検討していきたい。

資 料 編



■奥能登国際芸術祭実行委員名簿

(令和5年8月1日現在)

役職	所属団体名	職名	氏名	備考
最高顧問		石川県知事	馳 浩	
顧問		石川県議会議員	平蔵 豊志	
総合ディレクター			北川 フラム	
実行委員長		珠洲市長	泉谷 満寿裕	
副実行委員長	金沢21世紀美術館	館長	長谷川 祐子	
副実行委員長	珠洲市議会	議長	番匠 雅典	(兼)議員部会長
副実行委員長	珠洲商工会議所	会頭	刀祢 秀一	
副実行委員長	珠洲市文化協会	会長	池谷内 吉光	
副実行委員長	珠洲市区長会連合会	会長	泉谷 信七	(兼)地域部会長
産業部会長	珠洲商工会議所	常任相談役	泉谷 信七	
学術文化部会長	金沢美術工芸大学	教授	芝山 昌也	
観光部会長	特定非営利活動法人能登すずなり	理事長	重政 靖之	
実行委員	珠洲市議会総務教育常任委員会	委員長	三孟 三千三	
実行委員	珠洲市議会産業厚生常任委員会	委員長	川端 孝	
実行委員	珠洲市	副市長	金田 直之	
実行委員	珠洲市教育委員会	教育長	吉木 充弘	
実行委員	珠洲商工会議所	副会頭	重政 靖之	
実行委員	珠洲商工会議所	副会頭	矢野 好二	
実行委員	珠洲商工会議所	副会頭	安用寺 博文	
実行委員	珠洲市芸術文化協会	会長	太佐 寿一郎	
実行委員	珠洲市音楽文化協会	会長	南方 治	
実行委員	能登農業協同組合珠洲支店	支店長	坂下 雅樹	
実行委員	石川県漁業協同組合すず支所	支所運営委員長	上野 和春	
実行委員	能登森林組合珠洲支所	支所長	滝平 義弘	
実行委員	一般社団法人珠洲建設業協会	会長	明星 加守暢	
実行委員	珠洲市物産協会	会長	鍵主 哲	
実行委員	珠洲焼創炎会	会長	篠原 敬	
実行委員	一般社団法人珠洲青年会議所	理事長	坂本 洸士	
実行委員	珠洲市青年団協議会	会長	多原 真吾	
実行委員	珠洲市各種女性団体連絡協議会	会長	寺井 順子	
実行委員	一般社団法人サポートスズ	代表理事	南方 治	
監査委員	珠洲市	代表監査委員	田畠 邦章	
監査委員	珠洲市	監査委員	中板 秀一郎	

■事務局名簿

(令和5年8月1日現在)

役職	氏名	所属
事務局長	濱野 良夫	珠洲市芸術文化創造室長
事務局次長	袖 良暢	珠洲商工会議所事務局長
事務局員	山口 茂樹	珠洲市企画財政課長
	高林 義信	珠洲市産業振興課長
	田中 薫	珠洲市観光交流課長
	高橋 武夫	珠洲市教育委員会事務局長
	水上 昌子	珠洲市芸術文化創造室次長
	平野 文雄	珠洲市芸術文化創造室芸術祭推進係長
	前田 能利	珠洲市芸術文化創造室主事
	井上 紗来	珠洲市芸術文化創造室事務員
	岸田 利彦	珠洲市芸術文化創造室次長（文化財事務担当）
	河原 博志	珠洲市芸術文化創造室文化創造係長
	十二 将斗	珠洲市芸術文化創造室学芸員
	源 和政	珠洲商工会議所振興課長
	野口 宗紀	珠洲商工会議所主事
	瀧下 清司	珠洲商工会議所職員（臨時）
	大口 尚志	珠洲商工会議所職員（臨時）

■芸術祭のあゆみ（2014 年～2024 年）

（2014 年）

3 月－ 奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会発足

（2015 年）

4 月－ 珠洲市に奥能登国際芸術祭開催準備室を設置

5 月 18 日 奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会を発展的に解散し、
奥能登国際芸術祭実行委員会に改編

5 月 25 日 三崎地区説明会

5 月 26 日 若山地区説明会

6 月 1 日 日置地区説明会

6 月 2 日 宝立地区説明会

6 月 3-5 日 大地の芸術祭の里 事務局員視察

6 月 18 日 蛸島地区説明会

6 月 19 日 直地区説明会

6 月 21 日 飯田地区説明会、上戸地区説明会、正院地区説明会

6 月 22 日 大谷地区説明会

7 月 21-31 日 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015」 スタッフ研修

9 月 10-18 日 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015」 スタッフ研修

9 月 17 日 「第 19 回ふるさとイベント大賞」 最優秀賞（総務大臣表彰）

受賞記念講演（ラポルトすず）

9 月 22 日、23 日 奥能登珠洲 秋祭り体験ツアー

10 月 10 日、11 日 石川直樹氏によるプロモーション写真撮影（キリコ、ヨバレ）

10 月 13 日、14 日 秋祭り体験モデルツアー商品化検討会

11 月 4 日 奥能登国際芸術祭実行委員会役員会

11 月 26 日、27 日 「大地の芸術祭の里」 スタッフ研修

12 月 5 日、6 日 石川直樹氏によるプロモーション写真撮影（あえのこと、正月準備など）

12 月 15 日 北川フラムと語る会（奥能登国際芸術祭、「おくノート」について説明）

2 月 12-15 日 石川直樹氏によるプロモーション撮影（起舟祭り、岩のりとり、農作業等）

2 月 13 日 [おくノートプロジェクト] コドグラファー写真ワークショップ

2 月 14 日 [奥能登国際芸術祭 2017 シンポジウム] 奥能登・珠洲 15,000 人とともに
つくる芸術祭（ラポルトすず）

2 月 14 日 公式ホームページ：奥能登国際芸術祭公式 WEB サイト、
おくノート公式 WEB サイト立ち上げ

2 月 14 日 [おくノートプロジェクト][わるないわ～奥能登珠洲 写真と言葉の投稿
コンテスト] 募集開始（12 月 31 日まで）

4 月 5-8 日 石川直樹氏による公式写真撮影

4 月 8 日 奥能登国際芸術祭実行委員会役員会、奥能登国際芸術祭実行委員会総会

4 月 23 日、24 日 [おくノートプロジェクト] 春のコドグラファー写真ワークショップ

5 月 15 日 奥能登国際芸術祭実行委員会事務局を旧珠洲消防署に移転

6月1日	[おくノートプロジェクト]フリーペーパー「おくノート1号」発行
6月13日	[第1回ワークショップ]市内各区長会長を対象に北川総合ディレクターから概要を説明
6月23日	[珠洲の特産品リデザインプロジェクト]説明会
7月20日	「飯田町燈籠山祭り曳山体験」
7月23日	[おくノートプロジェクト]奥能登珠洲星ぞら上映会
7月23日、24日	[おくノートプロジェクト]里山里海体験キャンプ、夏のコードグラフィックワークショップ
8月1日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会、[第2回ワークショップ]一般市民を対象とした事業進捗報告会
8月15-25日	「瀬戸内国際芸術祭2016」スタッフ研修
9月1日	[おくノートプロジェクト]フリーペーパー「おくノート2号」発行
9月6日、7日	「宝立春日野のキリコ祭り よばれごっつお堪能ツアー」
9月10日、11日	「珠洲のキリコ祭りがまるごと体験できるよばれごっつお堪能ツアー」
9月10日、11日	公募ツアー（作品公募現地見学会）
9月11日、12日	石川直樹氏による公式写真撮影（キリコ、早船狂言）
9月16日	[第3回ワークショップ]芸術祭サポーター研修報告及び奥能登国際芸術祭サポーター組織化検討会を開催
9月19日	[珠洲の特産品リデザインプロジェクト]審査会
9月24日、25日	[おくノートプロジェクト]「ツール・ド・ニッポン in 奥能登の受け入れ」雑誌社主催の自転車ツアーに合わせて、ヨバレを体験
10月9日、10日	「猿楽祭」出展（東京都渋谷区代官山）
10月13日、14日	「馬縹の祭り体験モデルツアー」（首都圏の留学生）
10月17日	作品公募受付開始（10月31日まで）
10月28-30日	「瀬戸内国際芸術祭2016」事務局員視察
10月30日-11月1日	「瀬戸内国際芸術祭2016」実行委員長ほか役員視察
11月1-3日	「瀬戸内国際芸術祭2016」事務局員視察
11月24日	奥能登国際芸術祭2017「食」プロジェクト発足
11月26日、27日	[第4回ワークショップ]市内ショッピングセンターにて出張窓口を開設
12月1日	[おくノートプロジェクト]フリーペーパー「おくノート3号」発行
12月12日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会
(2017年)	
1月13日	[第5回ワークショップ]奥能登国際芸術祭サポーター組織の立ち上げに向けて、サポーター活動を希望する市民を対象に、北川総合ディレクターとの車座トークを実施
1月26日	
2月2日	石川県知事表敬訪問
2月19日	[第6回ワークショップ]第5回ワークショップ参加者を対象に、シンポジウムでのサポーター参加呼びかけなどについて検討
2月19日	[奥能登国際芸術祭2017企画発表会]（ラポルトすず）

2 月 19 日	サポーター登録開始 「珠洲 まつり御膳」加盟店募集開始
2 月 20-22 日	石川直樹氏による公式写真撮影
3 月 10 日、11 日	「大地の芸術祭の里 越後妻有 2017 冬」関係者視察
3 月 20 日	「おくノートプロジェクト」フリーペーパー「おくノート 4 号」発行
3 月 25 日、26 日	サポータースタディーツアー実施（旧日置公民館の片づけ作業、「滞在交流施設 日置」（日置ハウス）視察、作品展開予定地視察等）
4 月-	集落説明会開始
4 月 26 日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会、奥能登国際芸術祭実行委員会総会
5 月 27 日	「奥能登国際芸術祭開催記念 北陸アートフォーラム」北陸の地方創生を考える（北國新聞赤羽ホール）
5 月 27 日	作品鑑賞パスポート前売券販売開始
6 月 1 日	日置ハウス運営開始
7 月 4-17 日	「奥能登国際芸術祭 2017」開幕直前展（東京・渋谷ヒカリエ）
7 月 31 日	公式ガイドブック販売開始
8 月 27 日	「奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前スペシャルトーク」 （金沢 21 世紀美術館）
8 月 29 日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会
8 月 30 日	市長テレビ 5 局表敬訪問
9 月 3 日	奥能登国際芸術祭 2017 開幕
9 月 3 日	「珠洲 まつり御膳」提供開始
10 月 22 日	奥能登国際芸術祭 2017 閉幕
10 月 29 日	奥能登国際芸術祭 2017 ふり回り会
11 月 24 日	奥能登国際芸術祭実行委員会事務局が珠洲市役所に移転
11 月 30 日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会
(2018 年)	
2 月 15 日	奥能登国際芸術祭実行委員会役員会
2 月 23 日	奥能登国際芸術祭実行委員会総会
3 月 31 日	珠洲市奥能登国際芸術祭開催準備室を解散
4 月 1 日	珠洲市企画財政課芸術祭推進係内に奥能登国際芸術祭実行委員会事務局を設置
4 月-	常設作品を活用したツアーバスの受入を本格化
4 月 14 日	サポーター研修「スズサポミーティング」開催
5 月 9 日	「奥能登国際芸術祭 2020」開催に向けた連携会議を設置
5 月 9 日	「スズ弁」の開発及びツアー造成の取組を開始
5 月 25 日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成 30 年度第 1 回役員会
6 月 1 日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成 30 年度第 1 回総会 ⇒ 「奥能登国際芸術祭 2020」開催を決定
6 月 2 日	トークイベント「珠洲焼の魅力を探る」開催

8月9日	塩田千春 地元サポーターとの交流会開催
7月23-8月3日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」スタッフ研修
8月14-16日	お盆期間限定 屋内作品一般公開
8月20-27日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」スタッフ研修
8月29-31日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」実行委員長ほか事務局視察
9月1日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成30年度第2回役員会
9月2-3日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」地域サポーター視察
9月6-7日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」会議所観光・商業部会視察
9月11-10月30日	候補作家の先行招致
9月12-18日	「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」スタッフ研修
9月22-10月8日	秋の期間限定 屋内作品一般公開 ※土日祝のみ
9月22-10月8日	ガイド付き作品鑑賞バス「すずバス」運行 ※土日祝のみ
9月22-10月21日	ひびのこづえ×スズヅカ 2018 秋開催 ※土日祝のみ
10月2日	第1回奥能登フラム塾開催 テーマ「海の幸」
12月4日	第2回奥能登フラム塾開催 テーマ「珠洲のキリコ祭り」
12月8日	佐藤允彦 さいはての「ジャズナイト」開催
(2019年)	
1月8日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成30年度第3回役員会
2月5日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成30年度第4回役員会
2月24日	珠洲の食・アートを満喫「まるかじりバスツアー」開催 (作品鑑賞×食祭珠洲まるかじり)
3月7日	奥能登国際芸術祭サポート組織「一般社団法人サポートスズ」設立
3月11日	金沢21世紀美術館、金沢美術工芸大学と連携・協力協定を締結
3月21日	「スズ弁」完成お披露目会開催
3月21日	奥能登国際芸術祭実行委員会平成30年度第2回総会 ⇒ 「奥能登国際芸術祭 2020」会期を決定 (会期：2020年9月5日-10月25日)
3月21日	角田光代 さいはての“Cabaret Talk”『創作の秘密』開催
3月21-24日	「NPO法人瀬戸内こえびネットワーク」へサポーター研修
4月1日	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室を設置 奥能登国際芸術祭実行委員会の運営を開始
5月-	奥能登国際芸術祭実行委員会事務局を旧消防庁舎に移転
6月4日	第3回奥能登フラム塾開催 テーマ「能登杜氏」
8月6日	第4回奥能登フラム塾開催 テーマ「珪藻土」
8月9日	石川県知事表敬訪問

8月29日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和元年度第1回役員会
9月14日	「奥能登国際芸術祭2020」企画公募現地見学会開催
10月2-7日	「瀬戸内国際芸術祭2019」スタッフ研修
10月12-14日	ひびのこづえ×スズズカ2019秋開催
10月14日	ワークショップ「コロコロコレクティブ」開催
10月17-31日	「奥能登国際芸術祭2020」企画公募を実施（応募件数：142組173点）
10月19日、20日	「奥能登マイコロ映像祭」開催
10月22日	「石川直樹&森下真樹ディナーショウ！！」開催
10月20日、26日、 27日	「珠洲焼と芸術祭 アートツアー」開催（作品鑑賞×珠洲焼プロジェクト特別展）
11月1-5日	「瀬戸内国際芸術祭2019」スタッフ研修
11月6-8日	2019中国国際輸入博覧会に出展（上海市）
11月10日	山下洋輔 さいはての「ジャズナイト」!!開催
11月24日	「ヨバレ体験」モニターイベント開催
12月7日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和元年度第2回役員会
12月7日	奥能登フラム塾特別版「さいはての南極会談」開催
(2020年)	
1月31日	「ヨバレ体験」モニターイベント開催
2月1日	どやどや楽団 「さいはてのどやどやナイト」開催
2月24日	第6回奥能登フラム塾開催 テーマ「食」
2月24日	「食プロジェクト」キックオフ
3月8日	市民14,000人でつくる「奥能登国際芸術祭2020」プロジェクト発表会 開催（ラポルトすず）
3月8日	「珠洲の大蔵ざらえ」プロジェクトキックオフ
4月14日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第1回役員会
4月16日	石川県知事表敬訪問 ※コロナで中止
4月18日-	「珠洲の大蔵ざらえ」プロジェクトの民具収集活動を開始
4月20日	「奥能登国際芸術祭2020」企画発表会（東京） ※コロナで中止
5月7日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第2回役員会
5月15日	「奥能登国際芸術祭2020」企画発表会（金沢） ※コロナで中止
5月15日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第1回総会 ⇒ 会期1年延期を決定（会期：2021年9月4日-10月24日）
6月10日-7月3日	市内10地区の区長会へ概要説明及び協力を依頼
8月27日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第3回役員会
9月25日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第2回総会 ⇒ 名称を「奥能登国際芸術祭2020+」に変更及び新ロゴをお披露目
10月23日	珠洲市「食プロジェクト」推進委員会を設立
11月2-30日	市政懇談会において概要説明及び協力を依頼

11月10日 (2021年)	第2回珠洲市「食プロジェクト」推進委員会
1月16日、17日	第1回「食のフラム塾」 ※コロナで中止
2月1-25日	磯辺行久「偏西風ワークショップ事前学習会」開催（市内7小中学校）
2月15日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第4回役員会
3月1-5日	磯辺行久「偏西風ワークショップ実証実験」開催（市内7小中学校）
3月25日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和2年度第3回総会 ⇒ コロナ対策概要を発表
3月25日	劇場型歴史民俗博物館の名称を 「スズ・シアター・ミュージアム」に決定
4月3日-	順次集落説明会開催
4月10日、11日	大川友希 作品制作ワークショップ開催
5月14日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第1回役員会
5月18日	石川県知事表敬訪問 ⇒ コロナで延期（7月7日）
5月28日	「奥能登国際芸術祭2020+」企画発表会 ⇒ コロナで延期（7月15日）
6月5日、6日	キジマ真紀 作品制作ワークショップ開催
6月10日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第2回役員会
7月1日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第3回役員会
7月6-8日	磯辺行久「海流ワークショップ事前学習会」開催（市内4小学校）
7月7日	石川県知事表敬訪問
7月15日	「奥能登国際芸術祭2020+」企画発表会 ※オンラインで全国配信
7月15日	「スズ・シアター・ミュージアム」設立シンポジウム開催
7月15日	「奥能登国際芸術祭2020+」作品鑑賞パスポートの発売を開始
8月8日	第3回珠洲市「食プロジェクト」推進委員会
8月8日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第4回役員会 ⇒ コロナの状況を踏まえた開催方針及び木曜休館を決定
8月26日	第4回珠洲市「食プロジェクト」推進委員会
8月26日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第5回役員会 ⇒ 作品の限定公開（9月4日～12日）及びパスポートの前売り期間の 延長を決定
9月1日	「スズ・シアター・ミュージアム」関係者内覧会開催
9月3日、4日	プレスツアー開催
9月4日	「奥能登国際芸術祭2020+」開幕式
9月4日	オープニングツアー開催
9月11日、12日	ひびのこづえ×スズズカ2021 パフォーマンス「Come and Go」開催
9月13日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第6回役員会 ⇒ 作品の限定公開延長を決定（-9月30日）

9月28日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第7回役員会 ⇒ 会期の延長を決定（-11月5日）
9月30日	アメリカ大使館総領事視察
10月1日	全作品公開
10月6日	オーストラリア大使館視察
10月8日	「奥能登国際芸術祭 2020+」記念公演 「寿受狂言の会」開催
10月9日、10日	ひびのこづえ×スズヅカ 2021 パフォーマンス「Piece to Peace」 「Come and Go」開催
11月5日	「奥能登国際芸術祭 2020+」閉幕式
(2022 年)	
2月22日	スズ・シアター・ミュージアム設立総会
3月22日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度第7回役員会
3月28日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和3年度総会
5月3-5	スズ・シアター・ミュージアム GW 特別公開
6月10日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和4年度第1回役員会
6月19日	※珠洲市を中心に地震（最大震度5強）
7月5日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和4年度第1回総会
7月30日	第1回能登の食材セミナー
7月31日	スズ・シアター・ミュージアムが[日本空間デザイン賞 2022 「博物館・文化空間部門」]銀賞を受賞
8月11-14日	スズ・シアター・ミュージアムお盆特別公開「ナイト・ミュージアム」
9月5日	石川県知事表敬訪問
9月17-19日	ART Oku-Noto2022 秋（常設作品 18 会場）
9月17-19日	ずず AI 乗り合いタクシー運行
9月24日	第2回能登の食材セミナー
9月29日	スズ・シアター・ミュージアムが第35回いしかわ広告景観賞 石川県知事賞を受賞（公共部門）
10月2日	奥能登国際芸術祭 2023 企画公募 現地見学会
10月-11月	スズ・シアター・ミュージアム定期開館（土日のみ）17日間
10月21-23日	さいはての朗読劇「珠洲の夜の夢」開催（5公演）
10月27日	第5回珠洲市「食プロジェクト」推進委員会
11月5日、6日	ひびのこづえ×スズヅカ 2022 芝生プロジェクト、 パフォーマンス「ROOT：根」、ダンスワークショップ開催
11月11-25日	「奥能登国際芸術祭 2023」企画公募を実施（応募件数：191組 222点）
11月19日	食のシンポジウム及び食談義「さいはて御膳」開催
11月24日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和4年度第2回役員会
(2023 年)	
3月11日	スズ・シアター・ミュージアム付帯施設（潮騒レストラン）起工式
3月19日	第2回「食のフラム塾」講師・江部拓弥氏

3月21日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和4年度第3回役員会
3月26日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和4年度第2回総会
3月29日	第3回「食のフラム塾」講師・小野塚知二氏
4月1日	珠洲市芸術文化創造室を設置
4月13-14日	台湾旅行会社（11社）へ訪問（台北）
4月20日	さいはてのレストラン試食会（さいはてのキャバレー）
5月-7月	10地区を中心に順次地区説明会スタート
5月5日	※令和5年奥能登地震発生（最大震度6強） ⇒飯田地区/八木邸が損壊（スズプロ「奥能登曼荼羅」ほか） さいはてのキャバレーが使用不可 浅葉克巳氏「石の卓球台第3号」も被害
5月17日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和5年度第1回役員会
5月21日	奥能登国際芸術祭実行委員会令和5年度第1回総会 ⇒開幕日3週間延期を決定（9/2→9/23）
6月10日	「奥能登国際芸術祭2023」企画発表会（ラポルトすず）
6月27日	スズ・シアター・ミュージアム付帯施設を「潮騒レストラン」に決定
7月9日	嘉春佳 作品制作ワークショップ（旧上黒丸小中学校）
7月3-7日	泰然+きみきみよ 作品制作ワークショップ（市内小学校）
7月20-22日	ファムトリップ in 珠洲（台湾旅行社）
7月25日	「奥能登国際芸術祭2023」プレイベント（金沢市赤羽ホール） 「奥能登国際芸術祭2023」パスポート/ガイドブック販売開始
7月31日	「奥能登国際芸術祭2023」台湾インフルエンサーPRイベント（台北）
9月16日	「潮騒レストラン」プレオープン
9月22日	「潮騒レストラン」オープン
9月22-23日	「奥能登国際芸術祭2023」オープニングツアー
9月23日	「奥能登国際芸術祭2023」開幕式
11月6日	オーストラリア大使館視察
11月12日	「奥能登国際芸術祭2023」閉幕式
(2024年)	
1月1日	※令和6年能登半島地震（最大震度6強） ⇒常設作品にも被害

■これまでの実績

(会期)

	会 期	参加作家
奥能登国際芸術祭 2017	2017 年 9 月 3 日～10 月 22 日 (50 日間)	11 の国と地域 39 組
奥能登国際芸術祭 2020+	2021 年 9 月 4 日～11 月 5 日 (63 日間)	16 の国と地域 53 組
奥能登国際芸術祭 2023	2023 年 9 月 23 日～11 月 12 日 (51 日間)	14 の国と地域 59 組

※2020+：コロナ禍のため会期を1年延期、名称を2020+（当初：2020年9月5日～10月25日）

※2020+：さらに会期を約2週間延期（当初：～10月24日）

※2023：地震のため開幕日を3週間延期（当初：9月2日～）

(来場者数)

	2017	2020+	2023	合計	Ave
全期間来場者数	71,260 人	48,973 人	51,136 人	171,369 人	57,410 人
うち作品来場者数	68,665 人	—	49,366 人	166,142 人	55,668 人
うちイベント来場者数	2,595 人	—	1,770 人	5,227 人	1,742 人
日最大来場者数	4,949 人	2,654 人	3,087 人	—	3,563 人
週末最大来場者数	11,042 人	4,898 人	5,291 人	—	7,077 人

※来場者数は、2017、2023 については、エリアごとの推計値。2020+は検温スポット実数。

※2020+：来場者数のみ。

(パスポートなど販売実績)

	2017	2020+	2023	合計	Ave
作品鑑賞 パスポート	28,519 冊	22,995 冊	21,821 冊	73,335 冊	24,445 冊
	58,387,570 円	53,661,800 円	58,987,080 円	171,036,450 円	57,012,150 円
個別鑑賞券	26,740 枚	19,121 枚	17,738 枚	63,599 枚	21,200 枚
	7,491,100 円	8,017,750 円	7,306,360 円	22,815,210 円	7,605,070 円
合計	65,878,670 円	61,679,550 円	66,293,440 円	193,851,660 円	

■これまでのデザイン（ロゴ・グッズなど）

<ロゴ>

デザイン | 浅葉克巳（奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター）

（奥能登国際芸術祭 2017）



（奥能登国際芸術祭 2020+）



(奥能登国際芸術祭 2023)



(通年ロゴ)



＜ポスター＞

（奥能登国際芸術祭 2017）

デザイン | 浅葉克巳（奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター）
 写真 | 石川直樹
 大きさ | B2判



▲告知用



▲会期中

（奥能登国際芸術祭 2020+）

デザイン | 浅葉克巳（奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター）
 写真 | 石川直樹
 大きさ | B2判



▲告知用（延期前）



▲会期中

(奥能登国際芸術祭 2023)

デザイン | 浅葉克巳 (奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター)

写真 | 実行委員会公式写真使用

大きさ | B2判



▲会期中

<公式グッズ>

(奥能登国際芸術祭 2017)

デザイン | 浅葉克巳 (奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター)



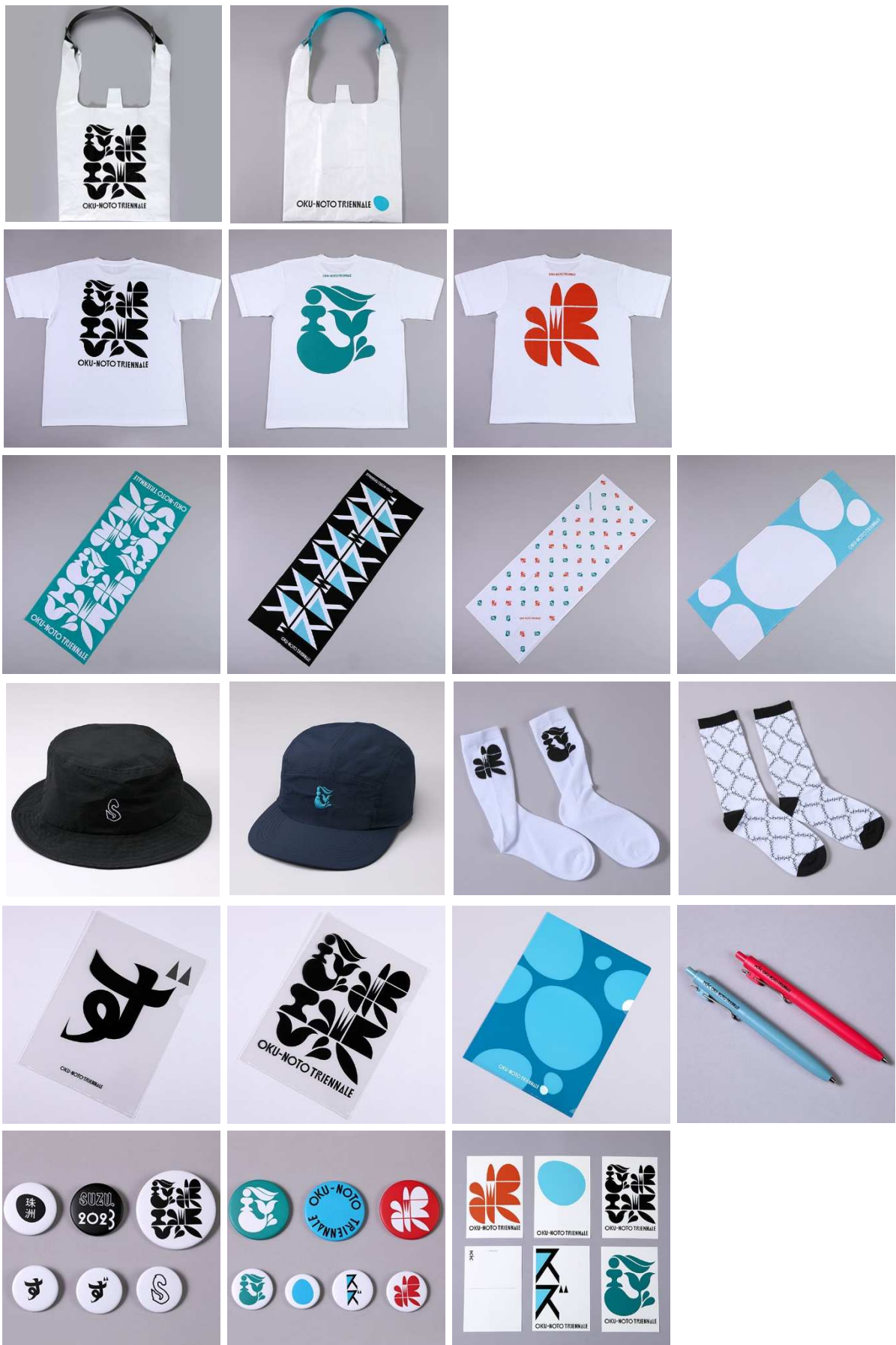
(奥能登国際芸術祭 2020+)

デザイン | 浅葉球



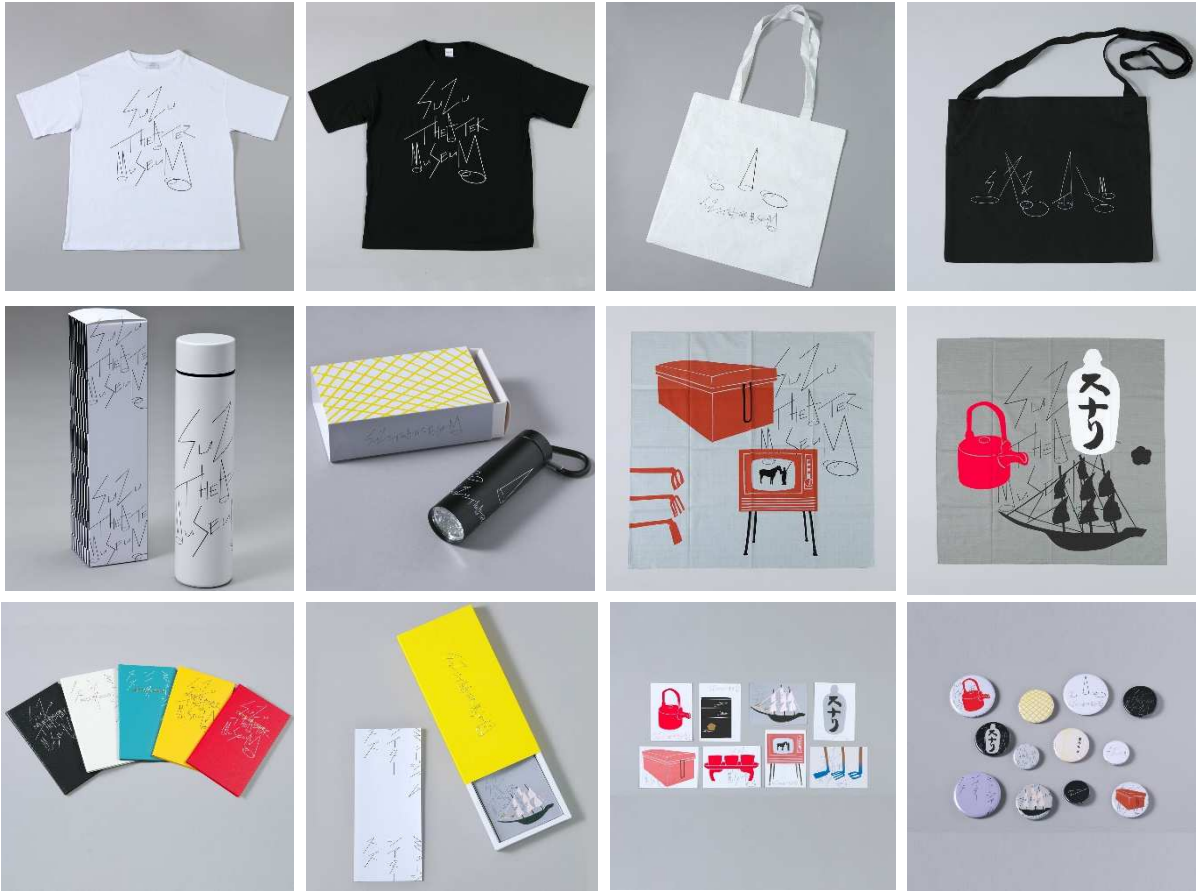
(奥能登国際芸術祭 2023)

デザイン | 浅葉球

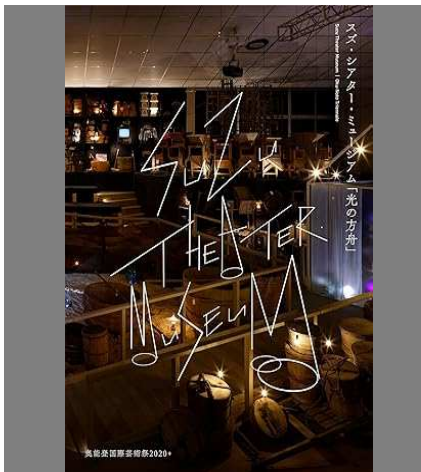


<スズ・シアター・ミュージアム関係>

デザイン | K I G I



スズ・シアター・ミュージアム資料集 (B5判)



(書籍)

大きさ | ガイドブック : A6 判

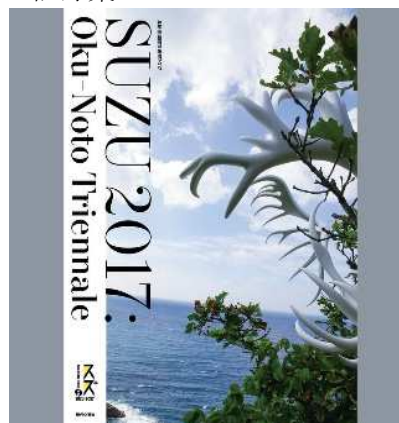
大きさ | 記録集 : B5 判

(奥能登国際芸術祭 2017)

ガイドブック



記録集



(奥能登国際芸術祭 2020+)

ガイドブック



記録集



(奥能登国際芸術祭 2023)

ガイドブック



記録集



■これまでのシンポジウムほか、関連イベント

<企画発表・シンポジウムなど>

■奥能登国際芸術祭の展望

開催日 2015年2月8日

会場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 基調講演：北川フラム総合ディレクター

事例報告「瀬戸内国際芸術祭のサポーター活動について」 甘利彩子氏

第二部 パネルディスカッション

泉谷満寿裕珠洲市長/加藤典洋氏/久保田裕道氏/EAT&ART TARO氏/中瀬康志氏



■奥能登国際芸術祭 2017 シンポジウム

～奥能登・珠洲 15,000 人とともにつくる芸術祭～

開催日 2016年2月14日

会場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 (基調報告・企画発表)

「奥能登国際芸術祭に向けて」 北川フラム総合ディレクター

「半島の可能性」 石川直樹氏

「食べ物をもっと美味しくなる方法」 EAT&ART TARO氏

「イベント&公式サイト企画発表」 福田敏也氏/小池博史氏/堀内明氏

第二部 奥能登座談会～芸術祭トーク～

アート、食、民俗などテーマにわかれて芸術祭を語る



■奥能登国際芸術祭 2017 企画発表会

開催日 2017年2月19日

会場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 「石川直樹の奥能登あるくみるきく」 石川直樹氏

「奥能登珠洲魅力 100 選の選出」 福田敏也氏

第二部 「奥能登国際芸術祭企画発表会」 北川フラム総合ディレクター



■奥能登国際芸術祭開 2017 催記念 北陸アートフォーラム『北陸の地方創生を考える』

開催日 2017 年 5 月 27 日

会 場 北國新聞赤羽ホール（金沢市）

第一部 基調報告：公益資本主義とは何か

「芸術文化が地域を創る～直島・瀬戸内の事例から～」 福武總一郎氏

「奥能登国際芸術祭について」 北川フラム総合ディレクター

第二部 パネルディスカッション

「奥能登国際芸術祭を北陸の地方創生につなげるには」

北川フラム氏/島敦彦氏/砂塚隆広氏/敷田麻実氏/舟見有加氏/泉谷満寿裕珠洲市長



■奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前展

開催日 2017 年 7 月 4 日～17 日

会 場 渋谷ヒカリエ 8 階 8/COURT・CUBE1, 2, 3

内 容 奥能登国際芸術祭作品プランの特別展示

石川直樹のあるく、みる、きく

奥能登珠洲トラベルサロン

奥能登珠洲魅力 100 選 作品ギャラリー

SPECIAL TALK

4 日「最涯こそが最先端」 浅葉克己氏/北川フラム氏/ひびのこづえ氏

「サポーター説明会」

5 日「クリエイターが語る“最涯の芸術祭”」 福田敏也氏/小池博史氏/堀内明氏

7 日「さいはてのキャバレー準備中」 EAT&ART TARO 氏/藤村龍至氏/みよしようこ氏



■奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前トークイベント

開催日 2017 年 8 月 27 日

会 場 金沢 21 世紀美術館 レクチャーホール

「奥能登国際芸術祭を語る」 北川フラム総合ディレクター

「アーティストは珠洲に何を感じたか」 リュウ・ジャンファ氏/眞壁陸二氏/よしだぎょうこ氏

「世界からみた最涯の芸術祭」 能登国際芸術祭 海外サポーター



■市民 14,000 人でつくる「奥能登国際芸術祭 2020」プロジェクト発表会

開催日 2020 年 3 月 8 日（日）

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 企画発表：北川フラム総合ディレクター

第二部 「大蔵ざらえ」スペシャルトーク

ゲスト：南条嘉毅氏（アーティスト）

北川フラム氏（総合ディレクター）

泉谷満寿裕氏（珠洲市長）

山岸綾氏（一般建築士事務所サイクル・アーキテツ）

寸劇「大蔵ざらえ」出演：大谷地区有志、サポートスズほか



■奥能登国際芸術祭 2020+プロジェクト発表会 ※オンライン配信

開催日 2021 年 7 月 15 日（木）

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 企画発表：北川フラム総合ディレクター

第二部 「スズ・シアター・ミュージアム」設立シンポジウム

コーディネイター：川村清志氏（国立歴史民俗博物館准教授）

パネリスト：天野真志氏（国立歴史民俗博物館特任准教授）

泉谷満寿裕氏（珠洲市長）

川邊咲子氏（国立歴史民俗博物館 プロジェクト研究員）

北川フラム氏（総合ディレクター）

南条嘉毅氏（アーティスト）



■奥能登国際芸術祭 2023 企画発表会 ※オンライン同時配信

開催日 2023 年 6 月 10 日（土）

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部 企画発表：北川フラム総合ディレクター

第二部 震災復興キャッチフレーズ&ロゴデザイン発表





5月5日の地震からの復興に向け、珠洲市で統一したキャッチフレーズとロゴを作成し、企画発表会と合せて披露した。考案したのは、金沢美術工芸大学製品デザイン研究生 坂東凜汰朗氏（珠洲市出身）。文字のフォントは、珠洲市民の想いが届くよう角のある力強いものを使用。色合いは、海、山、風、希望を4色で表現。外側の円は、人と人、人と自然の繋がり。一つの輪となり共に生きることを表現。

■奥能登国際芸術祭 2023 プレイベント

開催日 2023年7月25日（火）

会場 北國新聞赤羽ホール（金沢市）

第一部 企画発表/北川フラム総合ディレクター

第二部 アーティストトーク/常盤貴子氏×阿部海太郎氏
ピアノ演奏/阿部海太郎氏

※潮騒レストランオリジナルドリンク提供（ぶどうの木監修）

※パスポート及びガイドブック販売開始



<イベント>

■常設作品お盆期間限定 屋内作品一般公開

公開期間 2018年8月14日（火）～16日（木）

公開時間 10:00～16:00

公開場所 旧清水保育所、八木邸、旧飯田駅

来場者数 705人



■秋の期間限定 屋内作品一般公開

公開期間 2018年9月22日（土）～10月8日（月・祝）

※土・日・祝日のみ

公開時間 9:30～16:30

公開場所 旧清水保育所、八木邸、旧飯田駅、旧飯塚保育所、
旧日置公民館

来場者数 999人



■ART Oku-Noto 2022 秋

開催日 2022年9月17日(土)～19日(月・祝)の3日間

会場 常設作品18作品を公開(屋内作品9会場)

料金 各屋内作品

[一般] 300円/[小中高生] 200円

スズ・シアター・ミュージアム

[一般] 800円/[大学生] 600円/[小中高生] 400円

パスポート

[一般] 2,500円/[小中高生] 1,500円

来場者: 736人(実数)、のべ2,467人



＜さいはてのキャバレー＞

■さいはての「ジャズナイト」

開催日時 2018年12月8日(土) 18:00～20:30

出演者 佐藤允彦氏(ジャズピアニスト)

来場者数 84人



■さいはての" CabaretTalk" 『創作の秘密』

開催日時 2019年3月21日(火・祝) 18:00～20:30

出演者 角田光代氏(小説家)

来場者数 78人



■石川直樹&森下真樹ディナーショー！！

開催日時 2019年10月22日（火・祝） 18：00～20：30

出演者 石川直樹氏（写真家）
森下真樹氏（振付家・ダンサー）

来場者数 78人



■山下洋輔さいはての『ジャズナイト』！！

開催日時 2019年11月10日（日） 18：00～20：30

出演者 山下洋輔（ジャズピアニスト）

来場者数 101人



■さいはての「どやどやナイト」

開催日時 2020年2月1日（木・祝） 18：00～20：30

出演者 打楽器バンド どやどや楽団

来場者数 74人



<スズズカ>

■ひびのこづえ×スズズカ 2018 秋

(パフォーマンス①)

開催日 2018年9月23日(日)、24日(月・祝)

演 目 Rinne×浅沼圭×高岡沙綾×川瀬浩介

(パフォーマンス②)

開催日 10月20日(土)、21日(日)

演 目 WONDER WATRE×ホワイトアスパラガス×川瀬浩介

来場者数 797人(9月:423人、10月:374人)

(ワークショップ)

開催日時 2018年9月23日(日)、10月20日(土)の2日間

参加者数 42人(9月23日:17人 10月20日:25人)

※地元有志の皆さんが「スズズカ食堂」を運営



■ひびのこづえ×スズズカ 2019 秋

(パフォーマンス)

開催日 2019年10月12日(土)、13日(日)、14日(月・祝)の3日間

演 目 WONDER WATRE×ホワイトアスパラガス×川瀬浩介

Piace to Pease×島地保武×酒井はな×川瀬浩介

来場者数:420人(13日:276人、14日:144人)

※10月12日は台風のため中止

(ワークショップ)

開催日時:10月12日(土)

来場者数:16人



■ひびのこづえ×スズズカ 2022

(パフォーマンス)

開催日 2022年11月5日(土)

演 目 ROOT:根×アオイヤマダ×小野龍一(141人)

(ワークショップ)

開催日 2022年11月5日(土)、6日(日)の2日間

芝生プロジェクト:スズズカのグラウンドに芝生を植栽(94人)

ダンスワークショップ:アオイヤマダさんによるWS(42人)



<スズ・シアター・ミュージアム>

■GW特別公開

開催日 2022年5月3日(火・祝)～5日(木・祝)の3日間
来場者 605人



■お盆特別公開「ナイト・ミュージアム」

開催日 2022年8月11日(木・祝)～14日(日)の4日間
来場者 203人



■さいはての朗読劇「珠洲の夜の夢」

開催日 2022年10月21日(金)～23日(日)の3日間 全5公演
制作スタッフ

作：大崎清夏/構成・演出：長塚圭史/出演：北村有起哉/音楽：阿部海太郎/唄：池谷内吉光/美術：南条嘉毅/照明：鈴木泰人(OBI)/音響・制作：伊藤豊(イトウ音楽社)/衣装：市井まゆ/ヘアメイク：赤間直幸/舞台監督：山添賀容子/宣伝美術：江藤公昭(PAPIER LABO.)/美術助手：カミイケタクヤ/出演・協力：地域の方々
来場者 303人



<その他>

■映像ワークショップ「コロコロ コレクティブ」

開催日 2019年10月14日(月・祝) 9:30~17:30

場 所 旧日置公民館

講 師 さわひらき氏(映像作家)、木村悟之氏(映像ワークショップ)

参加数 飯田高等学校生徒 17人



■奥能登マイコロ映像祭

開催日 2019年10月19日(土)、20日(日)

場 所 旧日置公民館

出演者 さわひらき氏(映像作家)

映像ワークショップ(木村悟之氏、明貫紘子氏)

来場者 246人(19日:177人、20日:69人)

※地元飲食店等がブースを出展



<奥能登フラム塾>

珠洲の文化や産業をテーマに、各分野で活躍する多彩なゲストを講師に迎え、北川フラム総合ディレクターとともに学び、珠洲の魅力や課題を一緒に考えながら、芸術祭全体を磨き上げることを目的とした勉強会。(場所:さいはてのキャバレー)

【第1回】

開催日 2018年10月2日(火) 19:00~21:00

テーマ 海の幸

ゲスト 前野美弥次氏、林 修藏氏

参加者 24人



【第2回】

開催日 2018年12月4日(火) 19:00～21:00
テーマ 能登のキリコ祭り
ゲスト 高山哲典氏、菊谷正好氏、乙脇由美子氏
参加者 26人



【第3回】

開催日 2019年6月4日(火) 19:00～21:00
テーマ 能登杜氏
ゲスト 中倉恒政氏、川崎秀次氏
参加者 31人



【第4回】

開催日 2019年8月6日(火) 18:30～20:30
テーマ 珠洲の伝統建築・生活建築
ゲスト 米沢俊郎氏、樋本政一氏、今井 誠氏
参加者 37人



【第5回】

開催日 2019年10月1日(火) 18:30～20:00
テーマ 珪藻土
ゲスト 鍵主 哲氏、舟場慎一氏
参加者 24人



【特別版】さいはての「南極会談」

開催日 2019年12月7日（土） 17:00～19:00
ゲスト アレキサンドル・ポノマリョフ氏、鴻野わか菜氏
参加者 36人



【第6回】

開催日 2020年2月24日（月・祝） 14:00～15:30
テーマ 能登の食
ゲスト：太下義之氏（鶴岡市食文化創造都市制作アドバイザー）
参加者：23人



＜食のフラム塾＞

古くから受け継がれてきた伝統行事や、美しい里山里海から四季折々にもたらされる豊かな旬の食材を活かした珠洲市の食文化を、作家や料理人と協働して魅力を発信するとともに、その文化の継承や新たな担い手の育成など取り組みを進めている。

【第1回】

開催日 2021年1月16日（土）、17日（日）
場 所 木ノ浦ビレッジ
講 師 EAT&ART TARO 氏
※コロナウイルス感染症の影響により中止

【第2回】

開催日 2023年3月19日（日）
場 所 料理民宿「田崎荘」
参加者 19名
講 師 江部拓弥氏（グルメライター）



【第3回】

開催日 2023年3月29日（水）
場 所 木ノ浦ビレッジ
参加者 6名
講 師 小野塚知二氏（東京大学特命教授）

